

＜参考資料＞

1 設置条件【植樹帯、植樹柵の幅と有効幅員】

- 植樹帯、植樹柵の幅は 1.5m以上を原則とする。寄植（低木）のみの場合は 1.0m 以上を原則とする。（植樹帯の幅には、縁石ブロックの幅が含まれる。）
- 歩道の有効幅員は 2.0m以上を確保する。

「道路構造令の解説と運用」には、以下のように定められている。

2-9-3 植樹帯の幅員

（植樹帯）

第 11 条の 4

2 植樹帯の幅員は、1.5 メートルを標準とするものとする。

3 次に掲げる道路の区間に設ける植樹帯の幅員は、当該道路の構造及び交通の状況、沿道の土地利用の状況並びに良好な道路交通環境の整備又は沿道における良好な生活環境の確保のため講じられる他の措置を総合的に勘案して特に必要があると認められる場合には、前項の規定にかかわらず、その事情に応じ、同項の規定により定められるべき値を超える適切な値とするものとする。

一 都心部又は景勝地を通過する幹線道路の区間

二 相当数の住居が集合し、又は集合することが確実と見込まれる地域を通過する幹線道路の区間

(1) 概 説

植樹帯の幅員は 1.5 m を標準とすると規定されているが、この規定はおおむね 1 m 以上 2 m 以下を意味する。植樹帯は道路の空間機能を担う重要な横断構成要素であり、都市の骨格形成の中心となるような道路や景勝地を通過する道路等、空間機能を重視すべき場合には、標準値以上の広い幅員を確保する必要がある。植樹帯に期待される、都市の修景や、延焼防止などの空間機能、環境施設帯における緩衝空間としての役割を十分に発揮するためには、その幅員は、それらの機能を果たすために必要な幅員に加え、空間機能を付加するにふさわしい道路全体の幅員、全体幅員と植樹帯幅員のバランスを考慮して決定する必要がある。また、樹木の種類、配置および他の横断構成要素とのバランス等にも十分配慮する必要がある。特に高木の場合は、根の成長により近接する舗装が損傷をうけ、平坦性を損なうおそれがあるので、樹冠幅程度の植樹帯幅を確保することが望ましい。

なお、杉並木などの既存の樹木を生かして植樹帯を設けるような特殊な箇所は、道路構造令の一般的基準の範囲外と考えられるため、本規定によらずそれらに応じた適切な幅員を定める必要がある。

植樹帯は縁石その他これに類する工作物により区画して設けられるも

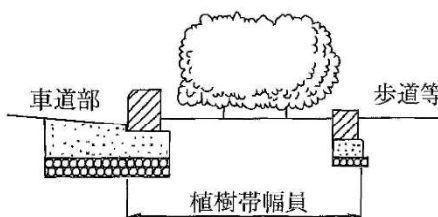


図 2-33 植樹帯断面の例

2 設置条件【交差点周辺、横断歩道、道路標識】

- ① 交差点内及び信号機の視距に支障をきたす範囲には中・高木の植栽をしないこと。
- ② 道路標識やカーブミラーなどの見通しに支障を生じないように配慮すること。
- ③ 中央分離帯における寄植は、管理面等を考慮して原則設置しないものとする。
ただし、シンボル道路など特に景観面に配慮が必要な場合は、設置を検討するものとする。
- ④ 車の出入りの切下げ部より 2m 以内に中木植栽は行わないこと。
- ⑤ 交差点の手前より 5m 以内の歩道部に、中木植栽は行わないこと。
- ⑥ 歩道から横断歩道に向かって右側 5m、左側 2m 間は中木の植栽をしないこと。

<平面交差点付近の視認距離について>

交差点・信号・道路標識等の視認に支障を生じないように配慮すること。

一般的には交差点内及び信号機（歩行者灯器）に支障をきたす範囲には中・高木の配植を行わないよう配慮すること。

<一般部の道路標識等の見通しについて>

案内・警戒・規則・指示などの道路標識やカーブミラーなどの見通しにより支障を生じないように配慮すること。

<歩行者や運転者からの見通しについて>

①交差点内や横断歩道付近の歩道及び中央分離帯の低木にあたっては歩行者と運転者の双方からの見通しに支障を生じないように配慮すること。この場合、車両通行のある枝道との交差点部も同様である。

②交差点内の交通島にあっては見通しに支障を生じないように配慮すること。

③交差点以外の歩道部の植樹帯の低木は、人が横断できないような刈り込み高が必要であるが、車の出入りの切下げ部の周辺は歩行者や運転者からの見通しに支障を生じないように配慮すること。

④交差点内にあっては、車両が左折する場合、交差点内の手前より見通しを必要とする区間（5m 以内）の歩道部に、視距を妨げやすい中木植栽は行わないこと。

④横断歩道部にあっては歩道部から横断歩道に向かって右側 5m、左側 2m 間は中木植栽は配植しないようにすること。樹高の低い成長期の高木にあっては、高木の仕立て標準を参考にして剪定を実施し必要な見通しの確保に留意すること。

⑤枝の多い中木植栽は見通し不良を生じやすいため植栽の位置や間隔、及び剪定方法など、交通安全上、特に注意すること。

<道路標識・信号機等の見通し不良の処置>

①見通しを確保するためには道路標識等の設置者と施設の移動や改良などについて協議し見通しの確保に努めること。

②樹木の選定も考えられるが、その場合は樹形・景観を損なわないよう配慮すること。

2 設置条件【交差点周辺、横断歩道、道路標識】

<寄植について>

低木による寄植えは、現在、面積約 21 万㎡（H28 年）と多く、毎年その刈込・除草を要し、怠ると特に景観上好ましくない。

今後の維持管理の軽減を図るためには、次項の表の機能を考慮し、小中学校通学路等で必要な箇所及び、効用や地域ニーズの高い箇所に設置することとする。

<寄植の機能>

街路樹の機能について、道路構造令には以下のような項目が挙げられており、これらを高木と寄植について比較した表である。

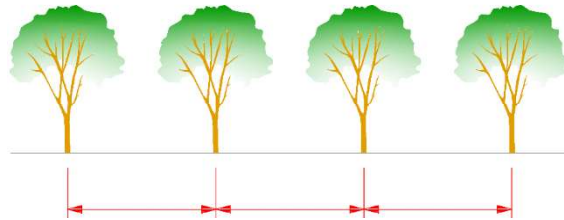
（道路構造令より作成）

種別	機能	高木	寄植
良好な道路交通環境の整備	自動車との混合交通を排し、歩行者・自転車を自動車交通から隔離する。また、歩道と自転車道の間に設けることにより、歩行者交通と自転車交通を分離する。	○	○
	歩行者、自転車の車道横断、飛び出しを防止する。	△	○
	自動車の歩道等への乗り上げを防止する。	△	○
	樹木の枝葉が上空を覆う、いわゆるキャノピー（天蓋）効果によって緑陰を形成し、寒暖や乾湿等の変化を緩和し、道路利用者に快適な空間を提供する。	○	-
	運転者の視線を誘導する。また、姿や形が特徴的な道路植栽による指標機能（ランドマーク機能）により、道路利用者に対して場所を認知させる。	○	-
	道路利用者に不快・不調和な感じを与えるものを遮蔽し、対向車の前照灯による眩光を防止する。	○	△
	運転操作を誤り逸走する自動車の衝撃を緩和する。	○	△
	樹林の防風効果により風の勢いを弱めることによって砂や雪の飛散を防止する。	○	-
沿道における良好な生活環境の確保	大気を浄化し、大気汚染の影響を緩和する。	○	△
	道路交通により生ずる騒音等の軽減に資する。	○	△
	自動車交通を視覚的にさえぎる。	○	-
	路面の輻射熱を遮断するとともに、樹木や植樹帯土壌からの水分の蒸発散により周辺の温度の上昇を緩和する。	○	-
	火災時に延焼を防止するとともに、火災を遮断して温度を低下させることによって道路の避難機能を確保する。	○	-
良好な公共空間の形成	沿道との景観の調和を図るとともに地域全体の風致美観を向上させる。	○	△
	姿・形の美しい植物や地域性の高い植物の導入により、地域の個性を演出する。	○	△
	様々な生き物が棲息し、豊富な緑が存在する空間であり、そこに自然の風景をとり入れることによって、初めて精神的安定感が得られ、快適な空間として心のやすらぎと潤いを得ることができる。	○	△
	道路新設による沿線の生態系に与える急激な変化を樹木の持つ様々な機能により和らげる機能。	△	△
	既存植生を守り、法面の浸食を防止し、土壌の保全改良に寄与する。	○	-

3 設置条件【高木の植栽間隔】

・植栽間隔について、各種の基準は以下のとおり。

- ①「道路緑化技術基準（日本道路協会、平成 28 年 3 月）」⇒6～10m程度
- ②「道路構造令の解説と運用（日本道路協会）」⇒6～8m（自然仕立ての大木では 10～12m）
- ③「道路緑化ハンドブック（中島宏）」⇒8m



「道路構造令の解説と運用」には、以下のように定められている。

2-9-4 植樹帯の植栽

（植樹帯）

第 11 条の 4

4 植樹帯の植栽に当たっては、地域の特性等を考慮して、樹種の選定、樹木の配置等を適切に行うものとする。

（1）植栽の設計

植樹帯が広幅員の場合は、沿道の状況に応じて芝生地、低木の群植、寄植などの単独またはそれらの組合せによる配植を考慮する。都市部の主要な箇所においては、状況により植樹帯の一部に季節草花を植栽し、花壇とするのもよい。また、騒音の緩和・防塵・遮蔽等の遮断効果を目的とした場合には、高木、中木、低木の多層の植栽とし、厚みのある植樹帯とすることが有効である。

高木の配置は、規則形単純植栽が一般的である。この植栽形式は、同一間隔に同一植種で同形、同大の樹木を整然と植栽するもので、統一均性の美を発揮させるのに効果的である。植樹帯が広幅員の場合には、不規則な自然形植栽、あるいは、いくつかの樹種をとり混ぜた混合植栽が併せて用いられることもある。植栽間隔は、高木の仕立様式によって異なる。また、樹木の将来の形状寸法（樹高、枝幅、幹周）にも十分留意する必要がある。緑陰効果を増加させるため樹冠を連たんさせる植栽もありうるが、通常の人工仕立てでは、日照、通風、見通しなどを配慮し、樹冠幅（通常 4～6 m）に約 2 m を加えた距離、すなわち 6～8 m とするのが一般的である。自然仕立てにおいて更に大きい樹冠幅となるときは、10～12 m の植栽間隔とする場合もある。

植樹帯の配植にあたっては、車道および歩道の建築限界に留意し、下枝の高さ、枝張りなどが建築限界線を侵して交通の障害とならないようにするとともに、視距の確保にも十分な注意が必要である。また交差点および横断歩道付近では、安全な通行を確保するために必要な見通しが妨げられないよう配植に注意しなければならない。

なお、照明灯、道路標識その他これらに類する道路附属物等は、格別の支障がないかぎり植樹帯内に設置することができる。

また、連続的に植樹帯を設置した区間には、線形が厳しい区間等を除いて一般に車道側の防護柵を設置する必要はない。

4 現存植生の植栽適性種

下記の表は、県内を地形や現存植生、実績のある樹種を基に代表的な樹種の分布を現したものである。

黒字：在来種 青字：外来種 緑字：園芸品種

植栽区分	地形区分	種 類	
I	低 地 台 地	高木	現存 アラカシ ウラジロガシ エゴノキ ケヤキ シラカシ スダジイ ヤブニッケイ クスノキ タブノキ シロダモ コナラ クヌギ 等
			実績 ハナミズキ トウカエデ イチョウ マテバシイ クスノキ ケヤキ モミジバフウ サルスベリ タブノキ トチノキ エンジュ ヤマボウシ スダジイ センダン アキニレ アオギリ クロマツ 等
		中低木	現存 ニシキギ ネズミモチ ヤブツバキ マユミ 等
			実績 キンモクセイ サザンカ ムクゲ マテバシイ ボケ 等
		草ツル	現存 キツタ ジャノヒゲ スイカズラ ツルマサキ ナツツタ ヤブコウジ ヤブラン 等
			実績 ジャノヒゲ
		高木	現存 アラカシ ウラジロガシ エゴノキ ケヤキ シラカシ スダジイ ヤブニッケイ クスノキ タブノキ シロダモ コナラ クヌギ 等
			実績 ハナミズキ イチョウ トウカエデ クスノキ モミジバフウ クロガネモチ マテバシイ コブシ ユリノキ サルスベリ カツラ ケヤキ ノムラモミジ イロハモミジ シラカシ トチノキ アオギリ エンジュ ソメイヨシノ シダレザクラ ヤマザクラ ハクウンボク クロマツ アラカシ カリン ハルニレ ヤマボウシ サトザクラ ナンキンハゼ 等
II	低 地	中低木	現存 ニシキギ、ネズミモチ、ヤブツバキ、マユミ 等
			実績 カンツバキ オオムラサキツツジ サザンカ ツゲ ハナミズキ ドウダンツツジ キンモクセイ シャリンバイ アジサイ トベラ ヤブツバキ ネズミモチ サツキツツジ キャラボク アベリア ムクゲ ウバメガシ コニファー、コノテガシワ 等
		草ツル	現存 キツタ ジャノヒゲ スイカズラ ツルマサキ ナツツタ ヤブコウジ ヤブラン 等
			実績 ジャノヒゲ ヘデラ・カナリエンシス タマリユウノヒゲ ヒベリカム 等
	台 地	高木	現存 アラカシ イロハモミジ ウラジロガシ エゴノキ ケヤキ シラカシ スダジイ ヤブニッケイ トチノキ シロダモ コナラ クヌギ 等
			実績 ハナミズキ モミジバフウ イチョウ ナンキンハゼ トウカエデ ユリノキ クスノキ ヤマボウシ コブシ サルスベリ ノムラモミジ クロマツ ケヤキ タブノキ イロハモミジ エゾヤマザクラ エンジュ クロガネモチ カツラ シラカシ ヤマモミジ ソメイヨシノ ハクウンボク ハナノキ アオギリ スギ ブラタナス アキニレ ギンヨウアカシア フウ 等
		中低木	現存 ネズミモチ、ニシキギ、ヤブツバキ、ヤマブキ、ムラサキシキブ 等
			実績 オオムラサキツツジ ドウダンツツジ アジサイ サザンカ ハナミズキ ムクゲ ヤブツバキ サツキツツジ ウバメガシ キンモクセイ キャラボク モチノキ ツゲ カマクラヒバ モッコク サルスベリ タマイブキ コニファー コノテガシワ イチイ アセビ 等
		草ツル	現存 キツタ、ジャノヒゲ、スイカズラ、ツルマサキ、ナツツタ、ヤブコウジ、ヤブラン 等
			実績 シバザクラ ササ ヤブラン タマリユウノヒデ ヒベリカム シバ 等
	丘陵地 山地	高木	現存 アカマツ イヌエンジュ イロハモミジ ウラジロガシ エゴノキ カツラ ケヤキ クスノキ シラカシ スギ スダジイ タブノキ トチノキ モチノキ ハクウンボク ハルニレ ヤブニッケイ ヤマザクラ ヤマボウシ アラカシ コナラ クヌギ ネムノキ 等
			実績 ハナミズキ ヤマボウシ ウメ マテバシイ ソメイヨシノ エゾヤマザクラ サルスベリ コブシ イチョウ エンジュ ネズミモチ ハクウンボク クロマツ ハクモクレン ナツツバキ 等
		中低木	現存 アセビ イヌツゲ イボタノキ ネズミモチ ムラサキシキブ ヒサカキ マユミ ヤブツツジ ヤマツツジ ヤマブキ 等
			実績 フヨウ ドウダンツツジ サザンカ オオムラサキツツジ サツキツツジ モッコク モチノキ ヤブツバキ サンゴジュ 等
		草ツル	現存 キツタ ジャノヒゲ ツルマサキ ヤブコウジ ヤブラン 等
			実績 シバ

「道路緑化計画の手順」「H28 単独道路維持修繕事業」を参考に作成

4 現存植生の植栽適性種

黒字：在来種 青字：外来種 緑字：園芸品種

植栽区分	地形区分	種 類	
Ⅲ	台地	高木	現存 アカマツ イチイ イロハモミジ ウラジロガシ エゴノキ カスミザクラ カツラ クロマツ ケヤキ コブシ シラカシ トチノキ ハクウンボク ハルニレ ヤマザクラ ヤマボウシ アオダモ アラカシ コナラ クヌギ 等
			実績 ハナミズキ ヤマモミジ トウカエデ ケヤキ ソメイヨシノ サルスベリ クロマツミザクラ イロハモミジ ノムラモミジ ヤマボウシ サンゴジュ 等
		中低木	現存 アセビ イヌツゲ イボタノキ ムラサキシキブ ヤマツツジ ヤマブキ マンサク 等
			実績 アジサイ ムクゲ サツキツツジ ドウダンツツジ カマクラヒバ タギョウショウ レンゲツツジ クリシマツツジ ビラカンサ イブキ コノテガシワ 等
		草ツル	現存 キツタ ジャノヒゲ ツルマサキ ミヤコザサ ヤブコウジ ナツツタ ヤブラン 等
			実績 タマリユウノヒゲ コグマザサ ササ 等
	丘陵地	高木	現存 アカマツ イチイ イヌガヤ イロハモミジ ウラジロガシ エゴノキ カスミザクラ カツラ ケヤキ コブシ トチノキ ハクウンボク ハルニレ ヤマザクラ ヤマボウシ アオダモ クヌギ 等
			実績 ハナミズキ 標高500m以上 Ⅲの山地に同じ
		中低木	現存 アセビ イヌツゲ イボタノキ マンサク ムラサキシキブ ヤマツツジ ヤマブキ 等
			実績 タギョウショウ 標高500m以上 Ⅲの山地に同じ
		草ツル	現存 キツタ ジャノヒゲ ツルマサキ ミヤコザサ ヤブコウジ ヤブラン 等
			実績 コグマザサ 標高500m以上 Ⅲの山地に同じ
	山地	高木	現存 アカマツ イチイ イヌエンジュ イロハモミジ カスミザクラ カツラ クロマツ ケヤキ コブシ トチノキ ハクウンボク ネムノキ ハルニレ ヤマザクラ ヤマボウシ 等
			実績 ソメイヨシノ イロハモミジ ヤマモミジ ハナミズキ ミズキ ヤマボウシ ヤマザクラ ナツツバキ ナナカマド ウリハダカエデ 等
			現存 標高500m以上 コハウチワカエデ コブシ シラカバ ダケカンバ トチノキ ナナカマド ハルニレ ヤマモミジ アオダモ 等
			実績
		中低木	現存 アセビ イボタノキ コマユミ ムラサキシキブ ニシキギ マユミ ヤマツツジ ヤマブキ 等
			実績 アジサイ ムクゲ フヨウ クリシマツツジ サツキツツジ ヤマツツジ カマクラヒバ ニシキギ ドウダンツツジ キアラボク オオムラサキツツジ ムラサキハシドイ レンゲツツジ ツゲ 等
			現存 標高500m以上 シモツケ ヤマツツジ ヤマブキ タムシバ ハイイヌツゲ ムラサキヤシオ 等
			実績
		草ツル	現存 キツタ クマザサ ジャノヒゲ ツルマサキ ミヤコザサ ヤブコウジ ヤブラン 等
			実績
			現存 標高500m以上 クマザサ チシマザサ ツルマサキ 等
			実績

「道路緑化計画の手順」「H28 単独道路維持修繕事業」を参考に作成

在来種……………古くから国内に自然分布域を有している種

外来種……………もともと国内に生育しなかったのに、人間の活動により国外から持ち込まれた種

園芸品種……………交配等による育種、栽培された種

現存樹種……………ある地域に現実に存在している植生のことで、人為的影響を受けていない自然植生と人為的影響を受けて成立している代償植生とがある。

※潜在自然植生……人為的営為を取りはずした時、立地が支え得ると考えられる理論的な自然植生をいい、土壌や気象を基礎としたその地域の能力をいう。

＜実績における、主な樹種選定理由＞

- ・地域の自然に適合して生育できるもの
- ・幹が通直に成長しやすく、樹形が美しいもの
- ・地域の特色を活かせるもの
- ・乾燥、病害虫被害等の耐性があるもの
- ・剪定等への影響が少なく、維持管理がしやすいもの

＜クライメートゾーン＞

- ・植物が生育できるかどうかを判断する要素として重要な年最低気温の平均を基準に設けられたゾーン。植栽可能な樹木の目安として活用されている。
- ・現存植生における樹木は他の樹木との競合の中で生育しているものであるが、クライメートゾーンでの指標樹木は競合は少ないものの厳しい環境下で生育できるかとの観点から検討される。

5 市町村の木と花

文化的要素として「文化・歴史」「生活史」「市町村の木」「天然記念物」などの要素から適正な樹種を選考する。

これらの要素は地域特性を活かすために重要な要素であり、市町村の木や花は緑化を推進するための中心的存在となる。

市町村	市町村の木・花		市町村	市町村の木・花	
	木	花		木	花
群馬県	クロマツ	レンゲツツジ	多野郡神流町	ケヤキ	ミツバツツジ
前橋市	ケヤキ・イチョウ	バラ・ツツジ	甘楽郡下仁田町	スギ	サクラ
伊勢崎市	マツ	ツツジ	甘楽郡南牧村	スギ	アカヤシオ
佐波郡玉村町	モクセイ	バラ	甘楽郡甘楽町	アカマツ	ソメイヨシノ
桐生市	モクセイ	サルビア	沼田市	サクラ	キキョウ
太田市	マツ・モクセイ カエデ・イチョウ	キク・サルビア ツツジ・シュラン	渋川市	アカマツ	アジサイ
館林市	クロマツ	ヤマツツジ	北群馬郡榛東村	スギ	ヤマユリ
みどり市	サクラ	カタクリ・キク	北群馬郡吉岡町	イチョウ	キク
邑楽郡板倉町	モクセイ	サクラ	吾妻郡中之条町	ケヤキ	ヤマユリ
邑楽郡明和町	ツゲ	キク	吾妻郡長野原町	カラマツ	ムラサキツツジ
邑楽郡千代田町	モクセイ	キク	吾妻郡嬬恋村	シラカバ	リンドウ
邑楽郡大泉町	ケヤキ	チューリップ サルビア	吾妻郡草津町	カラマツ・ナナカマド シラカバ・ハイマツ	シャクナゲ・コマクサ リンドウ
邑楽郡邑楽町	アカマツ	ヤマツツジ	吾妻郡六合村	アカマツ	レンゲツツジ
高崎市	ケヤキ カシ	サクラ ハクモクレン	吾妻郡高山村	ナラ	リンドウ
藤岡市	クスノキ モクセイ	フジ サルビア	吾妻郡東吾妻町	ケヤキ	スイセン
富岡市	モミジ	サクラ	利根郡片品村	シラカバ	ミズバショウ
安中市	スギ・マツ	ウメ	利根郡川場村	ヒメコマツ	シャクナゲ
多野郡吉井町	ケヤキ	サザンカ	利根郡昭和村	サクラ	ツツジ
多野郡上野村	シオジ	ヤシオツツジ	利根郡みなかみ町	ブナ	ヤマブキ

6 国・県・市町村の指定天然記念物

●国指定

●県指定

●市町村指定

市町村	市町村の木と花		国・県・市町村指定天然記念物	地域特性
	木	花		
前橋市	ケヤキ イチョウ	バラ ツツジ	●前橋高等学校のラクウショウ ●総社神社の社叢けやき6本	詩の都・古墳 バラ園 初市・セタ
(旧)富士見村	クロマツ	レンゲツツジ	●沼の窪のざぜんソウ ●原之郷のサンゴジュ ●時沢の夫婦マツ ●横室の大カヤ	アカギツツジ 赤城山
(旧)大胡町	ケヤキ	サツキ	●柵樹林	農業 ぐりーんふらわー牧場
(旧)宮城村	モミジ	ツツジ	●三夜沢のブナ ●大穴のブナ ●三夜沢赤城神社のたわらスギ	フラワーパーク 千本桜
(旧)粕川村	クロマツ	キク	●月田のモチノキ	月田の鏡手塚
高崎市	ケヤキ カシ	サクラ ハクモクレン	●萩原の大笠マツ ●ハクモクレン	福だるま 白衣観音
(旧)倉渚村	スギ	ヤマユリ	●榛名神社の大銀杏・大ケヤキ ●浅間神社の大カエデ ●笹野山のヒカリゴケ	ナメコ・シイタケ ミョウガ
(旧)箕郷町	アカマツ	ツツジ	●行人塚と竿うえ桜 ●桜葉師の桜	榎楽院のさかさ梅
(旧)群馬町	マツ	ウメ		上野国分寺跡
(旧)新町	ヤナギ モクセイ ハナミズキ	ツツジ サツキ	●浄泉寺大銀杏	人口密度最高
(旧)榛名町	スギ	ユウスゲ ナシ	●大林場道の大桑 ●梨の木平の山梨 ●医王寺跡のクスの木 ●榛名神社の矢立スギ ●里見の大ナン	梨の産地
(旧)吉井町	ケヤキ	サザンカ	●法林寺のカヤ ●常行院のラカンマキ ●小根のヤマナシ ●仁叟寺のカヤ ●上奥平宇小枝平のしだれ桜	生シイタケ・多胡石
桐生市	モクセイ	サルビア	●椿森のツバキ群 ●崇禪寺のイトヒバ ●二渡りのカヤ ●養泉寺のケヤキ ●泉龍院のシホウチク群 ●白髭神社のシラカシ ●白龍神社のケヤキ ●藍原家住宅のイロハカエデ ●諏訪神社のハルニシ ●相生のマツ ●「伝承」桐生大炊介植のヤナギ ●日枝神社のクスノキ群 ●三ツ堀加茂神社のサカキ	桐 繊維産業 きのこ 八木節
(旧)新里村	マツ	サクラソウ	●藪塚家のイヌツゲ ●龍興寺法印のカヤ ●錦木のアカシア ●サクラソウ ●土橋のおかめサクラ ●板橋のヤエツバキ ●藤生沢のお角サクラ ●元宿の大カキ ●野の大クスノキ	山上の多重塔
(旧)黒保根村	クロヒノキ ナツツバキ	サクラ ツツジ	●栗生神社の大杉	梨木温泉
伊勢崎市	マツ	ツツジ	●同聚院の大カヤ ●波志江の大シイ ●上楠木のサカキ ●連取のマツ ●華蔵寺のキンモクセイ	繊維工業・木工業
(旧)赤堀町	ケヤキ	サルビア	●信濃柿(マメガキ)	大和芋
(旧)東村(佐)	サザンカ	キク	●福島稲荷神社の大サザンカ ●西福寺の大カヤ	水生植物公園
(旧)境町	クロマツ	スイセン	●オオインソウ ●剛志のサザンカ	繊維工業 電気機器製造業
太田市	カエデ モクセイ マツ	キク	●丸山薬師のカタクリ群生 ●市場の大ケヤキ ●冠稲荷のボケ	金山のアカマツ 大光院、自動車産業
(旧)尾島町	モクセイ	サルビア	●浄蔵寺の大銀杏	大和芋
(旧)新田町	イチョウ モクセイ ウメ	キク ツツジ	●太奈荷神社の松	反町薬師 ボタン園
(旧)菱塚本町	アカマツ	シュンラン		たくあん大根
沼田市	サクラ	キキョウ	●馬かくれスギ ●コウヤマキ ●荘田神社の大イチョウ ●発知のヒガンザクラ ●須賀神社の大ケヤキ ●川田神社の大ケヤキ ●薄根の大クワ ●石墨大神宮のサクラ	リンゴ・ニラ コンニャク 枝豆・シイタケ
(旧)白沢村	イチイ	サルビア	●高平の書院の五葉マツ	農業
(旧)利根村	イチイ	シャクナゲ	●古寺のオオカヤ ●赤城砂川のヒカリゴケ自生地	片品溪谷及び吹割の滝
館林市	クロマツ	ヤマツツジ	●タテバヤンザサ自生地 ●茂林寺沼及び低地湿原	麦落雁・うどん・つつじ
藤岡市	クスノキ モクセイ	フジ サルビア	●中栗須のサザンカ ●御巡部神社のサカキ ●辛科神社のサカキ ●地守神社の大杉 ●水宮神社の大ケヤキ	藤
(旧)鬼石町	スギ	フユザクラ	●三波川のタラヨウ ●三波川のサクラ(冬桜)	三波石

出典「道路緑化計画の手順」

6 国・県・市町村の指定天然記念物

●国指定

●県指定

●市町村指定

市町村	市町村の木と花		国・県・市町村指定天然記念物	地域特性
	木	花		
渋川市	アカマツ	アジサイ	●金蔵時のナンテン ●藍園墓地の大ケヤキ ●早尾神社の大ケヤキ ●金蔵時のシダレザクラ ●祖母島のカンモクセイ ●下郷の大クワ	リンゴ・コンニャクイモ
(旧)北橋村	ニッポンタチバナ	ヒマワリ	●大桑	農業、佐久発電所の桜
(旧)赤城村	マツ	ヤマユリ	●桜森のヒガンザクラ ●溝呂木の大ケヤキ	●敷島のキンメイテウ 農業
(旧)子持村	カエデ	キク	●空恵寺の大楓 ●双林寺の千本カシ ●双林寺のヒイラギモクセイ ●双林寺の人助けのカヤ	●大山祇神社の大フジ 旧白井宿
(旧)小野上村	ケヤキ	ヒマワリ	●作間神社の大ケヤキ	コンニャク・ワサビ シイタケ
(旧)伊香保町	モミジ	ツツジ	●湯中子大山祇神社の大杉 ●大カヤの木 ●伊香保の大サツキ	●水沢の観音杉 伊香保温泉
富岡市	モミジ	フジ	●宮崎神社の大杉 ●貫前神社のスタジイ	コンニャク・下仁田ネギ イチゴ・リンゴ・シイタケ キウイフルーツ
(旧)妙義町	モミジ	キキョウ	●菅原神社の大ひのき ●妙義アメリカシヨウ ウナンボク	妙義山
安中市	スギ	ウメ	●福泉寺の楠 ●安中 小学校の大イチョウ ●磯部神明宮のヒイラギ ●安中原市のスギ並木 ●西広寺のツバキ	●大樺 秋間の梅林 安政の遠足
(旧)松井田町	マツ	ウメ	●五郎の大杉 ●行田の彼岸桜 ●木馬瀬の福寿草自生地 ●細野のヒガンザクラ	●七色もみじ ●恩賀のぐみ樹 ●乾窓寺のもくせい ●中木のサザンカ 熊野神社庭前のシナノキ
みどり市	サクラ	カタクリ	●キク	
(旧)笠懸町	アカマツ	ツツジ	●カヤノキ ●カタクリの群生地 ●鹿の川沼のエノキ	桃
(旧)大間々町	カシワ	サクラソウ	●小平の大杉	高津戸峡・ながめ菊花園
(旧)東村(勢)	スギ	キク シャクナゲ	●小中のムレ杉	林業・石材業
榛東村	スギ	ヤマユリ	●大川のしだれ桜 ●柳沢寺のモミジ ●宮昌寺のサルズベリ	●長岡のモクゲンジ ●黒髪神社のモミ・アカマツ ●上野原のケヤキ・イヌシデ・コナラ・スギ ブドウ 生シイタケ
吉岡町	イチョウ	キク		近代コケシ・ブドウ リンゴ・マイタケ
神流町	ケヤキ	ミツバツツジ		
(旧)万場町	ケヤキ	ヤマユリ	●高塩東沢のイチイ ●しだれ桜	コンニャクイモ・林業
(旧)中里村	ケヤキ	ツツジ	●八倉下りの山の大杉	
上野村	シオジ	ヤシオツツジ	●高野楓 ●野栗前山の福寿草自生地 ●白井関跡のイチイ ●上野檜原のシオジ林	●タラヨウ ●中正寺のシダレザクラ ●神行阿弥陀堂の大サワラ ●北限のセンダン 亀甲石産地
下仁田町	スギ	サクラ	●諏訪神社のケヤキ ●ムカデラン	ネギとコンニャク
南牧村	スギ	アカヤシオ	●大仁田神社の大スギ ●黒滝山の大スギ	コンニャクイモ・砥石
甘楽町	アカマツ	ソメイヨシノ	●秋畑の大ケヤキ ●諏訪神社の桜 ●楽山園のウメ	●秋畑のヒイラギ ●高橋家のムクロジと御殿桜 ●秋畑の大ツバキ コンニャク・シイタケ リンゴ・山芋そば・マス瓦
東吾妻町	ケヤキ	スイセン		
(旧)東村(吾)	スギ	キキョウ	●平五郎観音の大杉 ●甲波宿神社の大ケヤキ	●不動尊の大杉 マスの養殖 箱島発電所のソメイヨシノ
(旧)吾妻町	ケヤキ	スイセン	●応永寺の傘松 ●大柏木諏訪神社の杉並木 ●稲田のヤマナシ ●原町の大ケヤキ	●長福時のコウヤマキ ●唐掘のモクゲンジ 吾妻峡

出典「道路緑化計画の手順」

6 国・県・市町村の指定天然記念物

●国指定

●県指定

●市町村指定

市町村	市町村の木と花		国・県・市町村指定天然記念物	地域特性
	木	花		
中之条町	ケヤキ	ヤマユリ	- 町田家のシイ - お明神さんの桜 - 礪石のモミ - 大岩のヒカリゴケ - 清見寺の境内木(18本) - 沢渡りのカシ - 宇妻の系ヒバ - 稲荷裏神社の境内木 - 駒岩のヒイラギ - 林昌寺のしだれ桜 - 大道のシャクナゲ - 貫湯平の五葉松 - 大岩の三又スギ - 岩本の系ヒバ - 親都神社の大ケヤキ - 大久保のナツグミ - 中之条のサイカチ	キノコ・木工細工 四万温泉
(旧)六合村	アカマツ	レンゲツツジ	- 妙全杉(逆さ杉) - 一ニの森(櫛) - しだれ桜 - 入山世立のシダレクリ	尻焼温泉 野反湖
長野原町	カラマツ	ムラサキツツジ	- 王城山神社の神杉 - 御塚霊園境内のイタヤカエデ - 横壁諏訪神社の大ケヤキ - 大津のひいらぎ	川原湯温泉 川原湯岩脈
碓氷村	シラカバ	リンドウ	- 湯の丸レンゲツツジ群落 - 鳴尾の熊野神社大スギ	高原野菜・浅間山 万座温泉
草津町	カラマツ ナナカマド シラカバ ハイマツ	シャクナゲ コマクサ リンドウ	草津白根のアズマシャクナゲ及びハクサンシャクナゲ群落	草津温泉 高山植物(マリゴケ)
高山村	ナラ	リンドウ	- 中山神社大杉 - 新田本陣の大ケヤキ - 中山三島神社のスギ並木 - 泉竜寺のコウヤマキ - 塩原太助つなぎの松 - 高山の姉妹ツツジ	農林業
片品村	シラカバ	ミズバショウ	- 菅沼のウメ(白) - 吉沢家のカシ - 宮前の桜 - 三浦家の墓地のモミ - 永井家のクロベ - 大御堂のシダレザクラ - 高山家のカキノキ - 伊関町のチョウセンマツ - 穴沢十二様のカラマツ - しばきわの大イチイ - 摺淵のヒメコマツ - 武尊牧場レンゲツツジ群落 - 尾瀬(特別天然記念物) - 星野家のメガキ - 星野家の森 - ガニ沢のチョウセンマツ - 永井家のカヤ - 熊野宮のヒノキ - 星野稲荷様のイチイ - しばきわのシナノキ - 金井沢のアカマツ	日光国立公園
みなかみ町	ブナ	ヤマブキ		
(旧)月夜野町	アカマツ	キク	- 小松八幡宮の大杉 - 大峰山の浮島及び湿原植物 - 上津のウバザクラ - 村主八幡の大ケヤキ	リンゴ シイタケ 焼物 クリスタル
(旧)水上町	シラカバ	コブシ		谷川岳・スキー場
(旧)新治村	オオヤマザクラ		- 永井の大山桜 - 海円寺の大銀杏 - 新巻小学校のキンモクセイ - 相俣のさかさザクラ - 永井下屋敷原生林 - 東峰の梨の木	ヒカリゴケ自生地
川場村	ヒメコマツ	シャクナゲ	吉祥寺のヒメコマツ	春駒・武尊山
昭和村	サクラ	ツツジ	- 生超の大藤 - 雲昌寺の大ケヤキ	キャベツ・大根・白菜・ コンニャク・レタス・桃・ リンゴ
玉村町	モクセイ	バラ		県立女子大前のサクラ
板倉町	モクセイ	サクラ	- 多羅葉(松本家) - ピワ沼のオムニバスと水生植物 - 行人沼と水生植物群 - 薬師寺のしだれ桜	ハウス園芸
明和町	ツゲ	キク		シクラメン・ナン
千代田町	モクセイ	キク		植木栽培
大泉町	ケヤキ	チューリップ サルビア		いずみ緑道
邑楽町	アカマツ	ヤマツツジ	- 長柄神社のエドヒガンザクラ - 五位堂のシラカン - 恩林寺のイチョウ - 神光寺の大カヤ - 恩林寺のケヤキ - 中野小学校のマツ - 永明寺のキンモクセイ	多々良沼公園、フジ

出典「道路緑化計画の手順」

7 街路樹の特性一覧表【高木】

樹木名	樹木特性	樹高(m)
アオギリ (高木)	アオギリ科アオギリ属 落葉広葉樹 在来種 葉は大型の扁円形で浅く3～5裂する 樹皮は緑色をしている 葉は桐に似ているので青桐の名がある 性質強健	15
アオダモ (高木)	モクセイ科トネリコ属 落葉広葉樹 在来種 雌雄異株 春に白花が密に咲く 深みのある紅葉も良い 野球のバットに使われる	5～15
アオハダ (高木)	モチノキ科モチノキ属 落葉広葉樹 在来種 雌雄異株 緑白色の花を咲かせる 半陰地を好む 移植は容易 新芽は食用になる	10
アカガシ (高木)	ブナ科コナラ属 常緑広葉樹 在来種 成長はカシ類では速い 萌芽力大 刈り込みに耐える 移植は困難 大気汚染に強い	25
アカシデ (高木)	カバノキ科クマシデ属 落葉広葉樹 在来種 成長はやや速い 乾燥に耐える 新緑が美しく新芽は赤みをおびている	15
アカマツ (高木)	マツ科マツ属 常緑針葉樹 在来種 成長は速い 幹の萌芽力なし 大木の移動可能 大気汚染に弱い 雪・風に対し大枝が折れやすい 寒地や瘦地にも良く育つ 石灰質土を嫌う 深根性	15～30
アキニレ (高木)	ニレ科ニレ属 落葉広葉樹 在来種 ケヤキに似るが葉はやや小さい ニレケヤキとも呼ばれる 葉の表面は光沢があり 樹皮はまだらに斑紋が残る 萌芽力が強い 土壌を選ばない 都市環境で育つ	15
アスナロ (高木)	ヒノキ科アスナロ属 常緑針葉樹 在来種 成長は遅い 萌芽力あり 刈り込みに耐える 大気汚染にやや強い 風に強い	20～30
アラカシ (高木)	ブナ科コナラ属 常緑広葉樹 在来種 シラカンに比べ葉は大きい 成長はやや速い 萌芽力大 刈り込みに耐える 移植は注意を要す 大気汚染に強い	10～15
イタヤカエデ (高木)	カエデ科カエデ属 落葉広葉樹 在来種 春の新緑、秋の紅葉が良い 枝葉が横に広がる 性質強健で成長が速い 日当たりがよく肥沃な土壌のある所を好む	15～20
イチイ (高木)	イチイ科イチイ属 常緑針葉樹 在来種 成長は非常に遅い 日照地にも生育する 萌芽力あり、刈り込みに耐える 円錐形の樹形 雌雄異株	15～20
イチョウ (高木)	イチョウ科イチョウ属 落葉特殊(針葉樹でも広葉樹でもない特殊な木) 外来種 円錐形の樹形 秋の黄葉はよい 成長は速い 萌芽力大 刈り込みに耐える 雌雄異株で雌株は銀杏がなる 道路に落ちての悪臭を避けるため街路樹は大半は雄株 大木の移植可能 性質強健 寿命は長い	30
イヌエンジュ (高木)	マメ科イヌエンジュ属 落葉広葉樹 在来種 羽状複葉 7～8月に開花 排気ガスに強い	15
イヌガヤ (高木)	イヌガヤ科イヌガヤ属 常緑針葉樹 在来種 雌雄異株 3～4月に開花翌年10月頃に紫褐色に熟すが苦くて食べられない	6～9
イヌシデ (高木)	カバノキ科クマシデ属 落葉広葉樹 在来種 成長は速い 山地に強い 半日陰も可 移植は容易	15～20
イロハモミジ (高木)	カエデ科カエデ属 落葉広葉樹 在来種 4～5月本年枝の先の複数房花序に直径4～6mmの暗赤色の花が垂れ下がってつく 代表的な紅葉で知られる 庭木や公園等で広く利用 樹形はそろいにくい	10～15
ウメ (中木)	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 園芸品種 2～3月に咲く花には上品な芳香がある 多くの園芸種がある 成長は遅い 萌芽力あり 強剪定に耐える 徒長枝の発生が多い	5～7
ウラジログシ (高木)	ブナ科コナラ属 常緑広葉樹 在来種 暖帯林の代表的な樹種の1つ 萌芽力大・耐陰性あり 庭木・生垣・実は翌年の秋に熟す	20
ウリハダカエデ (高木)	カエデ科カエデ属 落葉広葉樹 在来種 寒冷地では美しく紅葉するが暖地では見栄えがしない 雌雄異株で成長は速い 乾燥を嫌う	8～10
ウワミズザクラ (高木)	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 在来種 別名アンニンゴ 白色5弁の花が多数密に開く 新潟県ではつぼみを塩漬けにして食用とする 果実は6～7mmの卵円形で先はとがり黄赤色から黒く熟す	20
エゴノキ (高木)	エゴノキ科エゴノキ属 落葉広葉樹 在来種 5～6月本年枝の側枝の先に白花を1～4個下垂する 果皮は有毒 果実は1～1.3mmの卵球形で灰白色・陰地性だが半陰地も可・耐潮性は大	5～10

出典「道路緑化計画の手順」「道路の樹木」を参考に作成

これまでの採用樹種（単木利用除く）及び今後検討できる主な樹種を掲載（これ以外は別途検討）

樹形	排気ガスに強い	耐乾性	耐寒性	風に強い	剪定に強い	剪定に弱い	成長が速い	成長が遅い	鳥が集まる	害比較少ない	比較的管理	備考
	○	○			○		○					幹が通直に伸び樹形も整いやすく、街路樹に向く 枝の伸長に対し定期的な剪定を要す
		○	○	○								幹が通直に伸び、街路樹に向く
												
	○											
		○										環境施設帯等で雑木林風仕立が良い
不整形		○	○						○			街路樹では独特な樹形を活用し地域性を表現すると良い マツノザイセンチュウに注意 樹勢維持が必要
					○						○	樹形が美しく街路樹に向く 剪定により縮小した樹形への仕立が可能
				○	○			○		○	○	
	○				○					○		幹が通直に伸び、街路樹に向く
不整形			○				○					幹が通直に伸び、街路樹に向く 広い場所や環境施設帯での植栽が良い
			○		○			○		○	○	分離帯等で遮断する場合や単木的な植栽が良い
	○	○			○		○			○		幹が直に伸び、黄葉が美しく街路樹に多く利用される シンボルツリーも良い 剪定により縮小した樹形への仕立てが可能 濡れた落葉は滑りやすい
	○	○			○				○			
不整形										○		
				○								
						○		○				街路樹では歴史的な街並みや地域性を表現するのがよい 広場等での群植によい
		○			○			○				比較的余裕のある道路際等により 地域性を表現するのによい
	○				○					○		
							○					幹が通直に伸び、山地部の街路樹に向く
									○			
				○					○			樹形を活かし、雑木林風仕立てがよい。

7 街路樹の特性一覧表【高木】

樹木名	樹木特性	樹高(m)
エゾヤマザクラ (高木) (オオヤマザクラ)	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 在来種 成長は速く成木の移植が困難である 排水良好で肥沃な土壌を好み過湿を嫌う 剪定を嫌う 大枝の切り口は殺菌・防腐処理を行う 花はヤマザクラより大きい	10～15
エノキ (高木)	ニレ科エノキ属 落葉広葉樹 在来種 成長は遅い 根張りが著しい 昔から一里塚によく用いる 性質強健 日照を好む 移植はやや容易 実が小鳥を呼ぶ	20
エンジュ (高木)	マメ科クララ属 落葉広葉樹 外来種 7～8月に淡黄白色の小さな花が咲く 羽状複葉 樹皮は独特の臭気がある 均整のとれた樹形 性質強健 中国原産 浅根性	20
カエデ〔総称〕 (高木) (モミジ)	カエデ科カエデ属 落葉広葉樹 イロハモミジ・トウカエデ・イタヤカエデ等多種あり、変種も多い 黄葉 紅葉各種あり 成長はいずれも遅い 半陰地性のものが多いが陽地にも耐える トウカエデは大気汚染に割合強い	
カシワ (高木)	ブナ科コナラ属 落葉広葉樹 在来種 葉が大きくふちの鋸葉が丸い 成長は非常に遅い 耐火力あり 水湿地にも耐える	10～15
カスミザクラ (高木)	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 在来種 高さ20m直径90mに達する 花期が遅くヤマザクラの散った頃に咲き始める	25
カツラ (高木)	カツラ科カツラ属 落葉広葉樹 在来種 雌雄異株 溪流沿いによく生え湿地を好む 葉は対生し広卵形で基部は浅い心形 大木では高さ35mになる 新緑や黄葉が美しい	10～30
カマクラヒバ (高木) (チャボヒバ)	ヒノキ科ヒノキ属 常緑針葉樹 園芸品種 日当たりを好み成長は遅い 萌芽力があり刈り込みに耐える 扇状の枝葉は階段状に密集し樹形が横にあまり広がらない	5～15
カヤ (高木)	イチイ科カヤ属 常緑針葉樹 在来種 成長は非常に遅い 萌芽力は大きく刈り込みに耐える 風に対して強い 性質強健	20
カラマツ (高木)	マツ科カラマツ属 落葉針葉樹 在来種 円錐形の樹形 春の新緑・秋の黄葉がよい 性質強健で成長は速い 比較的短命 萌芽力は大きく刈り込みに耐える 風折れ、雪折れが多い 過湿に弱い	20～30
カリン (高木)	バラ科マルメロ属 落葉広葉樹 外来種 中国原産でやや寒さに強い 萌芽力は強い 花はピンクで大きな実をつける ジャム、砂糖漬けに使われる	6～10
カンザクラ (高木)	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 園芸品種 樹皮は黒灰色で横に割れこぶができる 花期が早く葉の出る前か同時に開花する	5～7
ギンヨウアカシア (高木)	マメ科アカシア属 常緑広葉樹 外来種 葉裏が白く全体が銀緑色に見えるので「銀葉アカシア」だという。 浅根性で強風に弱い。	8～15
クスノキ (高木)	クスノキ科クスノキ属 常緑広葉樹 在来種 暖地に自生するほか、古くから神社などに植えられる 病害虫が少なく都市環境に強い 樹全体に樟脳を主成分とする精油を含有する 山地では巨木化したものもある	20～30
クヌギ (高木)	ブナ科コナラ属 落葉広葉樹 在来種 雑木林を代表する樹木 成長はやや遅い 水湿地に耐える 大木の移植は難しい	5～7
クマシデ (高木)	カバノキ科クマシデ属 落葉広葉樹 在来種 中庸樹 適潤またはやや湿気のある土壌を好む 適応性は大きい	15
クリ (高木)	ブナ科クリ属 落葉広葉樹 在来種 成長はやや速い 萌芽力あり 切り込みに耐える 乾燥は好まない	15～20
クロガネモチ (高木)	モチノキ科モチノキ属 常緑広葉樹 在来種 枝等が黒みがかったので「黒鉄モチ」と呼ばれる。 性質強健 成長はやや遅い 排水良好で肥沃な土壌を好む	20
クロマツ (高木)	マツ科マツ属 常緑針葉樹 在来種 幹は黒っぽく葉は赤松より大きい 潮風に対する抵抗力ある 性質は概ね強健 幹から松ヤニがとれる 群馬県の県木	15～30
ケヤキ (高木)	ニレ科ケヤキ属 落葉広葉樹 在来種 伸び伸びとした枝、春の新緑、秋の黄葉が美しい 成長はやや速い 萌芽力は大きく強剪定に耐える 大気汚染に敏感 病害虫は少ない	20～25
コナラ (高木)	ブナ科コナラ属 落葉広葉樹 在来種 雑木林を代表する樹木 乾燥地に耐える 性質強健で萌芽力は大きい	15～20

樹形	排気ガスに強い	耐乾性	耐寒性	風に強い	剪定に強い	剪定に弱い	成長が速い	成長が遅い	鳥が集まる	害が比較少ない	比較的管理	備考
			○			○	○					枝がほうき状に斜上するので、サクラの中では扱いやすい
不整形		○						○	○			樹形は大きく、ランドマークとして適する
	○				○				○			幹が通直に伸び樹形も整いやすく、街路樹に利用されている倒木への注意を払う
不整形			○					○				
			○	○				○				
			○			○			○			
			○									幹が通直に伸び、樹形も長楕円形に整い、街路樹に向く
					○			○				分離帯等で遮断する場合や狭い道路の街路樹で利用できる
	○				○			○		○	○	枝が横に広がるので、ランドマークとして適する
			○				○					幹は直に伸びるので枝下を高くとれば、街路樹に利用できる高原のイメージになる
					○							環境施設帯等で修景的に植栽するとよい
						○	○					
							○					幹が曲がり樹形が乱れやすいため街路樹には検討を要する倒木への注意を払う
	○				○		○			○		丸みを帯びた樹形や明るい葉色等が街路樹として好まれる
								○				環境施設帯等での雑木林風な仕立や、緑道によい
			○									環境施設帯等での雑木林風な仕立がよい
									○			環境施設帯等での雑木林風な仕立がよい
								○				街路樹として利用される葉が密生するので、病虫害を防止のための枝透しが必要
不整形	○	○		○					○			街路樹では独特な樹形を活用するとよいマツノイセモチユ被害に注意 樹勢の維持が重要
		○		○	○		○			○		美しい樹形や、新緑・黄葉が親しまれ、街路樹として利用される広い場所での自然樹形を活かしたい
		○										環境施設帯等での雑木林風な仕立がよい

7 街路樹の特性一覧表【高木】

樹木名	樹木特性	樹高(m)
コブシ (高木)	モクレン科モクレン属 落葉広葉樹 在来種 山地に生え、早春枝先に拳大の白い花が咲き芳香あり 葉は大きく実は赤い 乾燥地を嫌う 生育にバラツキを生じやすい	5～18
サクラ〔総称〕 (高木)	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 ソメイヨシノ・ヤマザクラなどの総称である 園芸品種多い 病虫害に弱いので植栽前から防除対策を考慮する 多くは剪定と過湿を嫌う	10～15
サトザクラ (高木)	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 園芸品種 八重咲の園芸品種全般 成長は速い 成木の移植は困難である 排水良好で肥沃な 土壌を好み過湿を嫌う	
サルスベリ (高木)	ミソハギ科サルスベリ属 落葉広葉樹 外来種 中国原産の暖地性の種 樹皮が滑らかで猿も滑り落ちるほど 花期は7～9月 土壌を選ばずよく生育し、成長は速い 幹が曲がりやすい	3～9
サワグルミ (高木)	クルミ科サワグルミ属 落葉広葉樹 在来種 山の沢沿いなどに生育 花穂は垂れ下がる 成長は速い 陽光に耐える 移植は困難	30
シオジ (高木)	モクセイ科トリネコ属 落葉広葉樹 在来種 山中に生え初夏に前年枝に円錐花序をだす 羽状複葉 花冠のない小さな花を多数つける	20～35
シダレザクラ (高木)	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 園芸品種 成長は速い 成木の移植は困難である 排水良好で肥沃な土壌を好み過湿を嫌う 枝が横に広がり垂れる	
シダレヤナギ (高木)	ヤナギ科ヤナギ属 落葉広葉樹 外来種 別名イトヤナギ 枝は細く垂れ下がる 葉の裏は粉白色 湿地に強い 性質強健	15
シナノキ (高木)	シナノキ科シナノキ属 落葉広葉樹 在来種 7～8月に咲く花はレモンに似た芳香あり 成長は速い 萌芽力あり 移植はやや困難 肥沃な土壌を好むが、乾燥に比較的強い	15～20
シモクレン (中木) (モクレン)	モクレン科モクレン属 落葉広葉樹 外来種 春の開葉前に紅紫の大きな花が咲く 枝の伸びは小さめ 排水良好で肥沃な土壌を好む 株立ち 性質強健 乾燥を嫌う 生育良好であれば樹形はまとまる	3～5
シラカシ (高木)	ブナ科コナラ属 常緑広葉樹 在来種 材が白いので「白カシ」と呼ばれる 萌芽力は大 刈り込みに耐える カシ類では寒さに強い方 排水良好な肥沃な土壌を好む	20
シラカバ (高木)	カバノキ科カバノキ属 落葉広葉樹 在来種 陽樹で成長は速い 湿潤肥沃土を好む 幼樹の移植は容易 剪定はあまり好まない 浅根性 防風の害受けやすい 比較的寿命は短い	20
シロダモ (高木)	クスノキ科シロダモ属 常緑広葉樹 在来種 葉は8～18cmの長楕円形でクスノキより大きい 革質3脈が目立ち裏面は白色 10～11月黄褐色の花を散形状に数個開く	10～15
スギ (高木)	スギ科スギ属 常緑針葉樹 在来種 代表する造林樹種 大気汚染に弱い 雪害に幹折れやすい 幼樹は耐陰性あり 成長は速い 根は深根性 肥沃な土壌を好む	20～30
スダジイ (高木)	ブナ科シイノキ属 常緑広葉樹 在来種 成長はやや速い 萌芽力は大きく刈り込みに耐える 移植は容易 風害に強い 実は食べられる 肥沃な土壌を好む	20
セイヨウトチノキ (高木)	トチノキ科トチノキ属 落葉広葉樹 外来種 別名マロニエ 葉はトチノキよりやや小型 花は白とピンクがある	35
センダン (高木)	センダン科センダン属 落葉広葉樹 在来種 葉は奇数2～3枚羽状複葉で互生 暖地の海岸近くに自生 根は荒れやすく移植は難しい 実は数珠玉に使われる 萌芽力は弱い	5～15
ソメイヨシノ (高木)	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 園芸品種 オオシマザクラとエドヒガンの雑種で江戸時代にできたものといわれている 花は葉に先立って咲き花数が多い 成長は速いが比較的短命 成木の移植は困難 剪定を嫌う 肥沃な土壌を好み、過湿を嫌う	10～15
ダブノキ (高木)	クスノキ科タブノキ属 常緑広葉樹 在来種 成長は速い 剪定刈り込みに耐える クスより耐寒性あるが病気は多い 移植は困難 深根性 性質強健	30
ドイツウヒ (高木)	マツ科トウヒ属 常緑針葉樹 外来種 性質強健 萌芽力小 刈り込みが強いと萎縮する 移植は困難 浅根性で風に倒れやすい 適潤地を好むが、乾燥土壌にも生育する 暑さに強くない	20～30

樹形	排気ガスに強い	耐乾性	耐寒性	風に強い	剪定に強い	剪定に弱い	成長が速い	成長が遅い	鳥が集まる	害比較が少ない	比較的管理	備考
	○		○	○						○		幹が直に伸び、街路樹に向く 春の訪れを演出する花木として適す 剪定は不要枝の除去程度
			○			○	○					
			○			○						サクラの中で樹形が小さく街路樹に向く 剪定を嫌い、大枝の切り口は殺菌・防腐処理が必要
不整形					○		○					花期が長く楽しめる 剪定を怠ると花つきが悪く、ウドンコ病やスス病にかかりやすい
							○					幹が直に伸びる 明るい樹姿でランドマークとしての利用がよい
												雄大樹形を活かし、山地部でのランドマークとしての利用が考えられる。
			○			○	○					広いスペースのランドマークとしてよい 剪定を嫌い、大枝の切り口は殺菌・防腐処理が必要
		○			○		○					水辺空間に調和する 街路樹では頻繁な剪定を要す
			○		○		○					幹が直に伸び樹形が整い、街路樹に向く
			○									株立ちとなるので、街路樹には不向き 環境施設帯の樹木の添景木としてよい
	○	○		○	○							幹が直に伸び枝は広がりにくく、街路樹に向く
			○			○	○					白い樹皮で爽やかなイメージを持ち、山地部での街路樹として利用できる
	○											緑地や公園などで植えられている
							○			○		幹が直に伸びる 郊外部の街路樹として、地域性を表現するのによい。
	○	○		○	○					○		都市環境に強く、街路樹に利用される 幹が直なものを選ぶことが必要
							○					パリを始めヨーロッパ各地で植えられている
									○			暖地の街路樹に使われている 枝が傘状になるので広い空間がよい 剪定は不要枝の除去程度にとどめたい
			○			○	○					花数が多く華やかで広い道路での街路樹、ランドマークとしてよい アメリカンヒトリ等病害虫に注意 天狗巣病が発生した時は早期対応必要
	○	○			○							幹が直に伸び街路樹に向く
			○			○						枝下高を確保できれば、街路樹によい 広場等で北国のイメージを演出できる

7 街路樹の特性一覧表【高木】

樹木名	樹木特性	樹高(m)
トウカエデ (高木)	カエデ科カエデ属 落葉広葉樹 外来種 中国原産 葉は上部が3浅裂する 表面は光沢があり 紅葉するは美しい 性質強健 日当たりが良好を好む	20
トチノキ (高木)	トチノキ科トチノキ属 落葉広葉樹 在来種 山地に生える 大きな掌状複葉、5～6月に白い小さな花が咲く 栃の実でトチ餅をつくる 成長は速い 乾燥を嫌う 萌芽力あり 剪定に耐える	15～25
ナツツバキ (高木) (シャラノキ)	ツバキ科ナツツバキ属 落葉広葉樹 在来種 成長はやや速い 半陰性 夏にツバキに似た白い花が咲く 幹はやや曲がりやすい 樹皮ははがれ落ちすべすべしている 肥沃な土壌を好む 強い日差しを嫌う	5～15
ナナカマド (高木)	バラ科ナナカマド属 落葉広葉樹 在来種 高地に生える 紅葉が美しい 果実は直径5～6mmの球状で赤く熟す 日当たりがよく排水良好な肥沃な土壌を好む	6～10
ナンキンハゼ (高木)	トウダイグサ科シラキ属 落葉広葉樹 外来種 九州の一部で野生化している 葉は丸みを帯びたひし形で互生・花は総状花序 紅葉が美しい 性質強健 中国原産	15
ニセアカシア (高木) (ハリエンジュ)	マメ科ハリエンジュ属 落葉広葉樹 外来種 明治初期に渡来、野生化した 奇数葉状複葉 5月頃白い総状の花をつける 芳香あり 極めて性質強健 成長が早い 土壌を選ばない 浅根性	15
ネムノキ (高木)	マメ科ネムノキ属 落葉広葉樹 外来種 原野・川岸などに生える 花は美しい 夜間は2回羽状複葉の葉を閉じる 性質強健	6～10
ノムラモミジ (高木)	カエデ科カエデ属 落葉広葉樹 園芸品種 オオモミジ系園芸種 春から秋まで葉は濃紫紅色 葉を除く性質はオオモミジと同様 肥沃な土壌を好む 幹が曲がりやすい	5～10
ハクウンボク (高木)	エゴノキ科エゴノキ属 落葉広葉樹 在来種 山地に生え、白い花が房状にさがる 花や実はエゴノキに似るが葉は大きい 性質強健 排水良好な肥沃な土壌を好む 剪定しなくても樹形は整う	6～15
ハクモクレン (高木)	モクレン科モクレン属 落葉広葉樹 外来種 中国原産 早春の白く大きな花は立派で芳香がある 性質強健 乾燥を嫌う 寒冷地では霜の被害を受けやすい 排水良好で肥沃な土壌を好む	15
ハナノキ (高木) (ハナカエデ)	カエデ科カエデ属 落葉広葉樹 在来種 本州の狭い範囲(岐阜、長野、愛知県)に分布 紅葉が美しい 4月頃葉に先立ち紅色の花がさく 排水良好で肥沃な土壌を好む 乾燥を嫌う	20～25
ハナミズキ (中木) (アメリカヤマボウシ)	ミズキ科ミズキ属 落葉広葉樹 外来種 春に花弁のように見える白・桃・赤の総苞が美しい 秋の紅葉もよい 成長はやや遅い 多少日陰が適する 乾燥を嫌う 移植はやや困難	5～8
ハルニレ (高木)	ニレ科ニレ属 落葉広葉樹 在来種 春に開花する 耐寒性がある 山地に生える 幹肌は黒っぽい 排水良好な肥沃な土壌を好む 大木となると樹形が整う	15～25
ヒノキ (高木)	ヒノキ科ヒノキ属 常緑針葉樹 在来種 代表する造林樹種 古くから日本人の生活と結びつきが深い 乾燥に強い 刈り込みに耐える 根は浅根性 急傾斜地でも育つ	20
ヒマラヤスギ (高木)	マツ科ヒマラヤスギ属 常緑針葉樹 外来種 自然樹形は美しい円錐形となる 性質強健で成長が速い 寒風に弱い マツカレハが大発生する場合があるので発見したら直ちに薬剤散布を行う	20～30
ヒメコマツ(高木) (ゴヨウマツ)	マツ科マツ属 常緑針葉樹 在来種 庭などによく植えられる 幹は直立 葉は短枝に5個づつつき、 針状でややねじれている 日当たりの良い、排水良好な土壌を好む	15～20
ヒメシャラ (高木)	ツバキ科ナツツバキ属 落葉広葉樹 在来種 シャラノキ(ナツツバキ)に比べ葉や花が小振り 6～8月に白い花をつける 排水良好で肥沃な土壌を好む 株立ちとなり下枝を密生し樹形がまとまる	5～15
ヒヨクヒバ (高木)	ヒノキ科ヒノキ属 常緑針葉樹 園芸品種 サワラの変種 シグレヤナギのように枝葉が垂れ下がった独特の樹形 成長は遅い 移植は容易 日陰地に耐える	4～15
フウ (高木)	マンサク科フウ属 落葉広葉樹 外来種 中国原産 葉は3列、互生でカエデと区別できる 紅葉はよい 性質強健で成長は速い 乾燥に耐える 日当たりのよく肥沃な土壌を好む	20

樹形	排気ガスに強い	耐乾性	耐寒性	風に強い	剪定に強い	剪定に弱い	成長が速い	成長が遅い	鳥が集まる	害比較が少ない	比較的管理	備考
	○	○			○		○					幹が直に伸び樹形も整い、街路樹に向く カエデの中では、暖かい街中でも生育できる
	○				○		○					幹が直に伸び樹形も整いやすく、街路樹に向く 夏過ぎに陽光等で葉が痛むことがある
												枝下高を確保できれば、街路樹によい 剪定はあまり要しない 強剪定は不可
		○	○	○					○			紅葉が美しく、樹形が小さくまとまる 山地部での街路樹によい
	○				○							紅葉のある暖地性の街路樹として使われている
	○	○			○		○		○			性質強健・旺盛な生育 芳香もあり街路樹に利用されてきた 在来種生育を阻害する(注1)
									○			樹形がまとまりにくく、街路樹には不向き 環境施設帯等で利用できる
			○		○		○					春から夏の赤色系樹木として映える 幹が曲がりやすく樹形が揃いにくいので、設置場所を選ぶ
						○			○			幹が直に伸び樹形も小さく整い、街路樹に向く
			⊖				○			○		幹が直に伸び、街路樹に向く 生育にバラツキが生じやすい 剪定は不要枝の除去程度
							○					幹が直に伸び、街路樹に向く
	○							○	○		○	春の総苞・秋の紅葉と美しく、街路樹に利用されてきた アメリカシロヒトリの食害を受けやすい
												幹が直に伸び、街路樹に向く 広い道路の街路樹や広場のランドマークとしてよい
		○										幹が直に伸びる 枝下高を確保し街路樹に利用できる
			○		○		○					枝下高の確保が難しく、街路樹の利用は少ない 広場でのランドマークとしてよい 強風による倒木に注意を払う
			○	○				○				樹高や樹形が均一に整わず、街路樹の利用は少ない
												環境施設帯の樹木の添景木としてよい
								○				環境施設帯の樹木の添景木としてよい 遮断を必要とする場合での植栽よい
		○					○			○		幹が直に伸び樹形も整い、街路樹に向く

7 街路樹の特性一覧表【高木】

樹木名	樹木特性	樹高(m)
ブラタナス (高木) (スズカケノキ類)	スズカケノキ科スズカケノキ属 落葉広葉樹 外来種 世界各地で植えられている 樹皮は大きくはがれる 葉は掌状で大きい 実は鈴のようにぶら下がる 性質強健 土壌をあまり選ばず、都市環境に耐える	15～35
ホオノキ (高木)	モクレン科モクレン属 落葉広葉樹 在来種 大きな葉が枝端に輪生してつく 萌芽力あり 刈り込み剪定に耐える 深根性で深層土の適潤地を好む	20～30
ポプラ (高木)	ヤナギ科ハコヤナギ属 落葉広葉樹 外来種 イタリアヤマナラシやアメリカヤマナラシなど同属の外来種の総称 高さ30mになる ほうき状に生長 葉は互生広卵形 強風に弱い	30
マテバシイ (高木)	ブナ科マテバシイ属 常緑広葉樹 在来種 沿海地に自生 シイノキより葉は大きく黄緑色 萌芽力は強い	15
ミズキ (高木)	ミズキ科ミズキ属 落葉広葉樹 在来種 山地に生える 萌芽力あり 強剪定に耐える 湿地に耐える 深層肥沃土を好む	10～20
ムクノキ (高木)	ニレ科ムクノキ属 落葉広葉樹 在来種 山地に生え、葉はケヤキ、エノキに似ている 実は黒色で甘みがあり食べられる 鳥が食べ他へ運ぶと言われる	30
メタセコイア (高木) (アケボノスギ)	スギ科メタセコイア属 落葉針葉樹 外来種 細長い葉が枝に対につく 垂直に伸び樹形は端正である 春の新緑・秋の黄葉も良い 性質強健 剪定に耐える 水辺に生える 根上りを起こしやすい	20～35
モチノキ (高木)	モチノキ科モチノキ属 常緑広葉樹 在来種 雌株葉が冬に赤い実をつける 防火樹として植えられる 木の皮からトリモチをとる カイガラムシやスズ病の病虫害が多い	10
モミ (高木)	マツ科モミ属 常緑針葉樹 在来種 幹は通直で端正な樹形 比較的短命 萌芽力なし 刈り込みに耐えない	40
モミジバフウ (高木) (アメリカカワ)	マンサク科フウ属 落葉広葉樹 外来種 葉は掌状でモミジの葉に似る 紅葉が美しい 性質強健 乾燥を嫌う 肥沃な土壌を好む 公園・街路樹に多く使われている	25
ヤナギ〔総称〕 (高木)	ヤナギ科ヤナギ属 落葉広葉樹 雌雄異株 種類により低木から高木まであり 街路樹として代表的なものシダレヤナギ 大気汚染に強く 耐煙性 移植やや容易	10～25
ヤブニッケイ (高木)	クスノキ科クスノキ属 常緑広葉樹 在来種 山地に生える 実から油やロウがとれる 葉の裏が白い	8～15
ヤマザクラ (高木)	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 在来種 山地に生える 葉と花が一緒に咲く 生長は速い 大気汚染に耐えない 枝が横に広がる 過湿を嫌う	10～20
ヤマボウシ (高木)	ミズキ科ミズキ属 落葉広葉樹 在来種 山野に生える、6～7月白い花弁のような総苞をつける 紅葉は美しい ハナミズキに似る国産樹種 葉が先に出てから開花する 実には食べられる 乾燥を嫌う	5～10
ヤマモモ (高木)	ヤマモモ科ヤマモモ属 常緑広葉樹 在来種 雌雄異株 雌株は6～7月に1cm大の赤い実がなり食用となる 街路樹はほとんどが雄株 根は根粒菌が共生しやせ地の緑化に使われる 性質強健 枝葉は密集しやすい	5～15
ヤマモミジ (高木)	カエデ科カエデ属 落葉広葉樹 在来種 イロハモミジより葉は大きく、オオモミジより鋸葉が大きい 新緑、紅葉が美しい 性質強健 肥沃な土壌を好む 幹は曲がりやすい	5～10
ユズリハ (高木)	トウダイグサ科ユズリハ属 常緑広葉樹 在来種 暖地の山地に生える 葉は15～20mと大きく枝先に輪生状に集まる 正月のかざりに使われる 下枝が上がりにくく枝葉が密生する	5～10
ユリノキ (高木)	モクレン科ユリノキ属 落葉広葉樹 外来種 ハンテンボク、チューリップツリーとも呼ばれる 5～6月に黄緑色のチューリップに似た花が咲く 明治初期に渡来 性質強健 乾燥を嫌う 枝は風で折れやすい	20～30
ラクウショウ (高木) (沼スギ)	スギ科ヌマスギ属 落葉針葉樹 外来種 枝葉はメタセコイアが対生なのに対し互生につける 沼地では気根が発達する 性質強健 土壌は特に選ばない	20～30

樹形	排気ガスに強い	耐乾性	耐寒性	風に強い	剪定に強い	剪定に弱い	成長が速い	成長が遅い	鳥が集まる	害比較が少ない	比較的管理	備考
	○	○		○	○							風格ある街路樹として、各国で利用されている アメリカシロヒトリ等の被害を受けやすい
					○		○			○		環境施設帯や広場でのランドマークとしてよい
		○	○				○					幹が直に伸び、郊外部の街路樹に検討できる 強風による倒木に注意を払う
	○	○		○						○		やや横に広がる整った樹形で、街路樹に向く
					○		○		○			乾燥を嫌うため、土壌環境に特に注意 初夏、クワムシの被害を受けやすい
							○		○			樹形は大きく、ランドマークとして適する
					○		○					幹が直に伸び、街路樹やランドマークに向く 自然樹形仕立てがよい 根上り防止対策を検討する場合がある
	○				○				○			下枝を高くとれば街路樹に可能 病虫害予防のため枝透し剪定を行う
			○			○						都市部での環境適応力は低い
	○				○							幹が通直に伸び樹形も整いやすく、街路樹に向く アメリカシロヒトリの食害に注意
		○			○		○					
										○		公園樹、庭園樹として植えられている
						○	○		○			郊外部の広い空間の街路樹などにより 大枝の切り口は殺菌・防腐処理を行う
								○	○			初夏の白い総苞・秋の紅葉と美しく、街路樹に使用される 剪定は不要枝の除去程度
	○	○			○					○		都市環境に強く、街路樹に利用される 幹が直なものを選ぶことが必要
												街路樹では歴史的な街並みや地域性を表現するのがよい 広場等での群植により
									○	○		暖地において下枝を高くとれば、街路樹に可能
	○				○		○					幹が直に伸び、樹形が丹精で街路樹に向く 広い空間で、自然樹形で育てたい
					○		○					幹が直に伸び、街路樹やランドマークに向く 自然樹形仕立てがよい

(注1) 街路樹によく使われてきた、ニセアカシア、トウネズミモチ、シンジュ、ナンキンハゼは、他の自然植生の生育を阻害するなど、「生態系被害防止外来種リスト」(H28.3)(環境省・農林水産省)に掲げられており、使用を控えること。

(注2) 園芸品種は、特定の植物を交配や選抜などして人が作り出した品種。サクラやモミジなどは多数の品種がある。また、上記の在来種・外来種・園芸品種の分けも一概に判断しきれない場合がある

(注3) 環境施設帯：植樹帯、歩道、副道等で構成される幹線道路における沿道の生活環境を保全するための部分

8 街路樹の特性一覧表【中木】

樹木名	樹木特性	樹高(m)
イヌツゲ (中木)	モチノキ科モチノキ属 常緑広葉樹 在来種 雌雄異株 庭木・盆栽・器具材 6～7月葉腋に小さな白花 陰地性だが陽地に耐える 成長は遅い 耐煙性ある 変種のマメツゲは樹高は低い	2～3
イボタノキ (中木)	モクセイ科イボタノキ属 落葉広葉樹 在来種 5～6月本年枝の先に白花が総状に多数咲く・果実は黒紫色に熟す	2～3
ウバメガシ (中木)	ブナ科コナラ属 常緑広葉樹 在来種 性質強健で耐潮性が大きく乾燥地でもよく成長するが成長は遅い。 カシ類の中では葉がちいさい 材は固く良質な備長炭となる	5～7
ウメドモ (中木)	モチノキ科モチノキ属 落葉広葉樹 在来種 庭木等利用 湿地に生える 赤い実が枝いっばいにつく 成長は遅い 移植は容易	2～3
カイヅカイブキ (中木)	ヒノキ科ビャクシン属 常緑針葉樹 園芸品種 燃え上がるような樹形で地際から枝葉が密生する ナシ類の赤星病の病原菌の中間寄主となる	6～7
カクレミノ (中木)	ウコギ科カクレミノ属 常緑広葉樹 在来種 成長が遅く、枝張りが小さく樹形が整う 耐陰性がある	3～8
カナメモチ (中木)	バラ科カナメモチ属 常緑広葉樹 在来種 赤い若葉からのアカメモチが転じた刈り込みに耐え若葉がよい 肥沃な土壌を好む 移植は困難 中国産オオカナメモチとの交配によるレッドロビンは生垣等多く利用される	2～7
コノテガシワ (中木)	ヒノキ科クロベ属 常緑針葉樹 園芸品種 本来樹高十数mに達する高木であるが緑化では中木としての利用が多い 均整のとれた美しい円錐形の樹形となる 地際から枝葉が密生する	5
サカキ (中木)	ツバキ科サカキ属 常緑広葉樹 在来種 6～7月に葉腋に直径1.5cm下向きに白花1～4個 陰地性 成長は遅い 耐煙性は高 大気汚染に強い	2～5
サザンカ (中木)	ツバキ科ツバキ属 常緑広葉樹 在来種 10～12月枝先に直径4～7cmの花をつける 公園や庭園に使用される ツバキと異なり花びらが分かれている	5～6
サンゴジュ (中木)	スイカズラ科ガマズミ属 常緑広葉樹 在来種 成長は速い 土壌を選ばず生育するが、乾燥にはやや弱い 耐陰性もある 赤い実が珊瑚のようにぶら下がる 性質強健であるが樹勢が衰えるとサンゴジュハムシ等の被害を受ける	5～6
シキミ (中木)	モクレン科シキミ属 常緑広葉樹 在来種 果実は8～12個の袋果が星形に並び9～10月に有毒の種子をだす	2～5
シャリンバイ (中木)	バラ科シャリンバイ属 常緑広葉樹 在来種 日当たりがよければ土壌を選ばず成育する。5月頃、白い小花をたくさんつける 成長が遅いので剪定の頻度は少なくてもよい 病虫害も少ない	2～6
タムシバ (中木)	モクレン科モクレン属 落葉広葉樹 在来種 日本海側に多い コブシの花に似るがやや小さい	3～9
ナンテン (中木)	メギ科ナンテン属 常緑広葉樹 外来種 秋に赤く熟す果実及び紅葉が美しい 果実はヒヨドリが好む 樹高が高くなると姿が乱れるので、新葉の出る前に剪定する	2
ネズミモチ (中木)	モクセイ科イボタノキ属 常緑広葉樹 在来種 葉はモチノキに似る 6月頃本年枝の先に長さ5～12cm円錐花序をだし白花を多数つける 性質強健 土壌を選ばず生育する 実薬用になる	6～8
ヒイラギ (中木)	モクセイ科モクセイ属 常緑広葉樹 在来種 雌雄異株 葉に刺がある 昔から厄除けに利用されている	2～3
ヒサカキ (中木)	ツバキ科ヒサカキ属 常緑広葉樹 在来種 3～4月葉腋に直径5～6mmの白花を束生 サカキ同様、神事に用いられる	2～3
フヨウ (中木)	アオイ科フヨウ属 落葉広葉樹 外来種 夏にきれいな花を咲かせるので並木に用いると爽やかな冷涼感がある 日当たりが悪いと花つきが劣る	2～4
マユミ (中木)	ニシギギ科ニシギギ属 落葉広葉樹 在来種 山地に普通に生え、秋にピンク色の身をぶら下げ4つに割れる 葉が両面無毛のカンサイマユミと裏面の毛状突起や毛があるカントウマユミを区別する	3～5
マンサク (中木)	マンサク科マンサク属 落葉広葉樹 在来種 早春山では一番早く花を咲かせ、庭に良く植えられる・花形がおもしろい	2～3

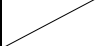
出典「道路緑化計画の手順」「道路の樹木」を参考に作成

これまでの採用樹種（単木の利用除く）及び今後検討できる主な樹種を掲載（これ以外は別途検討）

樹形	排気ガスに強い	耐乾え乾燥に	耐寒さに	風に強い	剪定に強い	剪定に弱い	成長が速い	成長が遅い	鳥が集まる	害が比較的少ない	比較的管理が容易	備考
	○				○			○	○			植樹帯での遮断、間隔を空けての列植に適す 徒長枝に対する定期的な剪定を要す
					○							植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に適す
不整形		○						○				植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に適す 徒長枝に対する定期的な剪定を要す
								○	○			
	○	○	○		○			○			○	植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に適す ナン栽培地付近での植栽は避ける
					○			○				比較的狭い街路樹空間や日照確保が難しい場所でも利用可能
					○		○			○		植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に適す
			○		○			○		○		植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に適す 自然樹形を活かしたい
	○								○	○		比較的狭い街路樹空間でも利用可能
	○								○			植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に適す
					○		○					植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に適す
					○							特有の香気から街路樹にはあまり使われない
					○			○		○		植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に検討できる
										○		山地部の道路脇など検討できる
		○			○							環境施設帯等の樹木の添景として群植に検討できる
	○	○		○	○				○			植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に適す
	○				○					○		立ち入り禁止の植樹帯によい
					○			○	○		○	植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に適す
							○					道路脇や広場等の添景に群植するとよい
				○								道路脇や広場等の添景に群植するとよい
不整形											○	道路脇や広場等の添景に群植するとよい 自然樹形を活かしたい

8 街路樹の特性一覧表【中木】

樹木名	樹木特性	樹高(m)
ムクゲ (中木)	アオイ科フヨウ属 落葉広葉樹 外来種 花色の種類多い ハイビスカスに似る 葉は互生・生垣や庭によく使われている 枝が上方に立ちやすい 強剪定に耐える	2～4
ムラサキシキブ (中木)	クマヅツ科ムラサキシキブ属 落葉広葉樹 在来種 6～7月葉腋から集散花序をだし、淡紫色の花を多数つける・実は鳥が食べる	1.5～2
ムラサキハシンドイ (中木) (ライラック)	モクセイ科ハシンドイ属 落葉広葉樹 外来種 日当たりのよい所を好む 酸性土壌には適さないので石灰等で中和する 4～6月香りの良い紫色の花を咲かせる	2～4
モクセイ(中木) キンモクセイ ギンモクセイ	モクセイ科モクセイ属 常緑広葉樹 外来種 雌雄異株 成長はやや遅い 樹形は自然にまとまる 芳香(10月)はキンモクセイの方が強い 風が強く乾燥しやすい場所では生育が劣る	3～6
モッコク (中木)	ツバキ科モッコク属 常緑広葉樹 在来種 性質強健 葉は光沢があり葉柄が紅色を帯びる 肥沃な土壌を好み乾燥を嫌う 風通しが悪い所や生育が劣るとカイガラムシがつきスズ病を併発しやすい	10～15
モモ (中木)	バラ科サクラ属 落葉広葉樹 園芸品種 古く中国から日本に渡来し、観賞用や果樹として広く栽培されている。 多くの園芸品種がある。春に桃色の美しい花を咲かせる。	3～5
ヤブツバキ (中木)	ツバキ科ツバキ属 常緑広葉樹 在来種 2～4月紅色の花を咲かせる 種子から椿油をとる 成長は遅い 大気汚染に強い 移植はやや容易 野生種は15m程の樹高になる 成長にバラツキがある	3～8

樹形	排気ガスに強い	耐乾性	耐寒性	風に強い	剪定に強い	剪定に弱い	成長が速い	成長が遅い	鳥が集まる	害が比較的少ない	比較的管理が容易	備考
	○	○		○	○							植樹帯で遮断する場合や間隔を空けての列植等によい
									○			植樹帯での群植がよい
			○									暑くない山地部等での街路樹として検討できる
					○					○		芳香があり樹形もまとまりやすく、街路樹に向く
								○				植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に適す 枝透かし等を行い病虫害を予防する
					○		○					道路脇や広場等の添景に群植するとよい
	○							○	○		○	植樹帯での遮断、間隔を空けての列植等に適す 枝透かし等を行い病虫害を予防する

- (注 1) フヨウは、「生態系被害防止外来種リスト」(H28.3)(環境省・農林水産省)に揚げられており使用には注意が必要である。
- (注 2) 園芸品種は、特定の植物を交配や選抜などして人が作り出した品種。上記の在来種・外来種・園芸品種の分けも一概に判断しきれない場合がある。
- (注 3) 環境施設帯：植樹帯、歩道、副道等で構成される幹線道路における沿道の生活環境を保全するための部分

9 街路樹の特性一覧表【低木】

樹木名	樹木特性	樹高(m)
アオキ (低木)	ミズキ科アオキ属 常緑広葉樹 在来種 山林下に生え、耐陰性が強い 12～3月に紫褐色の実がなる 葉は光沢があり、斑入りなど品種が多い 大気汚染に強い	2～3
アジサイ (低木)	ユキノシタ科アジサイ属 落葉広葉樹 園芸品種 6～7月に細かな花がまとまって咲く 品種も多い 性質強健で雑草との競合に強く半日陰の湿った所であればよく育つ	1.5
アセビ (低木)	ツジ科アセビ属 常緑広葉樹 在来種 葉が有毒 性質強健で日陰地でも土壌を選ばず育つ 白花が多数垂れ下がり咲く 庭木等で使われる	2～3
アベリア (低木) (ハナヅノツクバネウツギ)	スイカズラ科ツクバネウツギ属 常緑広葉樹 外来種 6～10月に香りの良い花をつける 強い刈り込みに耐える 成長旺盛 雑草への競合へも強い	1～2
オオムラサキツツジ (低木)	ツツジ科ツツジ属 常緑広葉樹 園芸品種 大きな紫色の花にちなんで「大紫」 剪定や施肥は花が終わった後に行う 生育旺盛で手入れの行き届かない場所で雑草に負けることはない	1～3
カンツバキ (低木)	ツバキ科ツバキ属 常緑広葉樹 園芸品種 冬に開花する 主幹が立たず枝は分岐し横に広がりやすい 中国原産の油茶とヤブツバキとの雑種であると言われている。耐陰性がある。	1～2
キャラボク (低木)	イチイ科イチイ属 常緑針葉樹 在来種 耐寒性があり日陰でよく生育するが成長は遅い 幹は斜め上に伸び枝も横に広がる 病虫害は少ない	1
クリシマツツジ (低木) (クレスツツジ)	ツツジ科ツツジ属 常緑広葉樹 園芸品種 日当たりを好み乾燥や湿害に弱いので肥沃な土壌を選び排水を良好にする 紅色や橙色など多彩な品種の花色がある 芝や雑草との競合に弱い	0.5～1
コデマリ (低木)	バラ科シモツケ属 落葉広葉樹 外来種 4～5月に白い花が塊となって咲き美しい 雑草との競合には強くない 萌芽力は強い 枝垂れる自然の樹形	1.5～2
コマユミ (低木)	ニシギギ科ニシギギ属 落葉広葉樹 在来種 ニシギギと違い枝にコルク質の翼が発達しない品種	2～3
コムラサキ (低木)	クマツヅラ科ムラサキシキブ属 落葉広葉樹 在来種 花冠は平開し、雄しべ4個雌しべ1個つきで 枝いっぱいにつける瑠璃色の実美しい	1～1.5
サツキツツジ (低木)	ツツジ科ツツジ属 常緑広葉樹 在来種 旧暦の5月に開花する 朱紅色の花は美しい 乾燥害や湿害に弱い 肥沃な土壌・排水良好を好む 雑草に負けやすい	1
シモツケ (低木)	バラ科シモツケ属 落葉広葉樹 在来種 5～8月に3～6mmのピンクを主とする花が傘状の塊となって咲き美しい 土壌を選ばず成長する 雑草に負けやすい	0.5～1
ジンチョウゲ (低木)	ジンチョウゲ科ジンチョウゲ属 常緑広葉樹 外来種 3～月に外側が紅紫、内側が白い花を咲かせる 萌芽力が弱い 樹形が自然に整う 線虫などの被害により前触れもなく突然枯れることがある。	1～1.5
タマイバキ (低木)	ヒノキ科ビャクシン属 常緑針葉樹 園芸品種 日当たりがよければ土壌を選ばず生育する。自然に樹形が整う。 イブキの園芸品種	0.5～1
チャ (低木)	ツバキ科ツバキ属 常緑広葉樹 在来種 緑茶用に各地で栽培されている 10～11月に白い花をつける	0.5～1
ツゲ (低木)	ツゲ科ツゲ属 常緑広葉樹 在来種 特に石灰岩地や蛇紋岩地に多い 成長は遅い 耐煙性あり 移植は困難 枝が細かく分岐し葉が密につく 萌芽力がある	1～3
ドウダンツツジ (低木)	ツツジ科ドウダンツツジ属 落葉広葉樹 在来種 4～5月にスズラン上の花が咲き美しい 当たりよく排水良好で肥沃な土壌を好む 湿害に弱い 自然樹形が優れる 寒冷地では秋の紅葉も見事	1～3
トベラ (低木)	トベラ科トベラ属 常緑広葉樹 在来種 海岸部に分布し内陸では関東付近まで 枝葉が密生する 強い刈り込みに耐える カイガラムシやスズ病の被害を受けやすい	2～3

出典「道路緑化計画の手順」「道路の樹木」を参考に作成

これまでの採用樹種（単木の利用除く）及び今後検討できる主な樹種を掲載（これ以外は別途検討）

樹形	排気ガスに強い	耐乾性に耐える	耐寒性に耐える	風に強い	剪定に強い	剪定に弱い	成長が速い	成長が遅い	鳥が集まる	害が比較的少ない	比較的容易な管理	備考
	○							○	○	○	○	日照確保が難しい場所でも利用可能
			○				○					道路脇や広場等の外縁部での植栽がよい
	○							○		○	○	植樹帯での寄植え、環境施設帯の樹木の裾押さえとして利用できる
		○			○		○					植樹帯等で遮断を必要とする寄植によい 成長が早く定期的な刈込みを要す
					○		○					植樹帯での寄植に多く使われている
								○				植樹帯等で遮断を必要とする寄植によい
			○					○		○	○	樹高が低いので視距を確保する場合によい
												植樹帯等で遮断を必要とする寄植によい 除草が重要
			○		○							植樹帯では数株ずつの群植がよい 除草が重要
				○							○	植樹帯等で遮断を必要とする寄植によい
					○				○			植樹帯では数株ずつの群植がよい
					○							植樹帯等で遮断を必要とする寄植によい 除草が重要
		○		○	○							植樹帯では数株ずつの群植がよい 除草が重要
								○				植樹帯では数株ずつの群植がよい 剪定は必要ないが、性質が弱いので大規模な植栽は不適
		○				○		○				樹高が低いので視距を確保する場合によい 強剪定は枝が枯れ戻るので注意
	○									○		お茶の産地では寄植し、地域性を表すのによい
	○							○	○			植樹帯の寄植えによく利用される 枝葉の刈込みに比較的強い
			○		○			○				植樹帯等で遮断を必要とする寄植によい 自然樹形を活かしたい
		○			○		○					植樹帯等で遮断を必要とする寄植によい

9 街路樹の特性一覧表【低木】

樹木名	樹木特性	樹高(m)
ニシキギ (低木)	ニシキギ科ニシキギ属 落葉広葉樹 在来種 秋の紅葉や赤い実が美しい 枝にコルク質の翼が発達するのが特長 性質強健で適応性は広い	1～2
ヒイラギナンテン (低木)	メギ科ヒイラギナンテン属 常緑広葉樹 外来種 ヒイラギに似て鋸葉の先がとがっている 耐陰性が大きい 土壌を選ばず生育する 葉は地際の枝からつける 冬の寒風を嫌う	1～3
ピラカンサ (低木)	バラ科タチバナモドキ属(トキワサンザン属) 常緑広葉樹 外来種 ピラカンサはタチバナモドキ、トキワサンザン等の総称 性質強健で成長は早い 秋に橙色や黄色の実を鈴なりにつける 枝は鋭い棘がある	2～4
ヒラドツツジ (低木)	ツツジ科ツツジ属 落葉広葉樹 園芸品種 淡紅色や白色など多くの花色の品種がある 4～5月に7cmほどの大きな花を咲かせる 日当たり良好で、肥沃な土壌を好む やや寒さに弱い 移植は容易	1～3
ボケ (低木)	バラ科ボケ属 落葉広葉樹 在来種 性質強健で土壌を選ばずよく生育する。徒長枝が伸びて樹形が乱れやすい。 3～4月頃、開葉前に3cm程度の花をつけ美しく 多くの園芸品種ある	1～2
ボックスウッド (低木) (セイヨウツゲ)	ツゲ科ツゲ属 常緑広葉樹 外来種 ツゲに似た明るい緑色の葉がよい 枝が地際から生え柔らかい 寒気に当たると褐色になる 立方体に刈込めるほど萌芽力は強い 土壌はさほど選ばない	1～2
ミツバツツジ (低木)	ツツジ科ツツジ属 落葉広葉樹 在来種 日当たりがよく排水良好であれば土壌を選ばずよく育つ 暑さにはやや弱い 枝の先に葉が3枚ずつつく 開葉前に紅紫色等の花が咲いて美しい	1～3
ヤマツツジ (低木)	ツツジ科ツツジ属 半落葉で分類は常緑 在来種 山野に生え、枝に褐色の毛がある 寒地では落葉する 移植は容易 暑さにはやや弱い 4～6月朱紅色の花が咲く 性質強健で雑草との競合に強い	0.5～2
ヤマブキ (低木)	バラ科ヤマブキ属 落葉広葉樹 在来種 変種にヤエヤマブキ 丘陵地などの林の中に普通に生えるほか、庭などに広く植えられる 枝が垂れ、4～5月頃黄金色の花は美しい 成長は速い・移植は容易・乾燥に強くない	1～2
ユキヤナギ (低木)	バラ科シモツケ属 落葉広葉樹 在来種 日当たりがよく排水良好な所であれば土壌を選ばずよく生育する。 枝は垂れる 4月頃小さな白い花が枝いっぱい咲く	1～1.5
リュウキュウツツジ (低木) (シロリュウキュウ)	ツツジ科ツツジ属 常緑広葉樹 園芸品種 径7cm程の白い花が咲く。大型の花をつけるツツジの中では最も耐寒性が大きい。	1～2
レンゲツツジ (低木)	ツツジ科ツツジ属 落葉広葉樹 在来種 4～6月前年の枝先の短い総状花序に朱橙色の花が2～8個咲く 花色の変化多種ある 高原などに群生 単独で生育は少ない 暑さには強くない 群馬県の県花	0.5～2

樹形	排気ガスに強い	耐乾性に耐える	耐寒性に耐える	風に強い	剪定に強い	剪定に弱い	成長が速い	成長が遅い	鳥が集まる	害が比較的に少ない	比較的管理が容易	備考
	○				○							植樹帯等で遮断を必要とする寄植によい
												立入防止の植樹帯としてよい 樹形の保持は古株を地際から切除する
							○					立入防止の植樹帯としてよい 成長が早いので定期的な剪定を要す
					○							道路脇や広場等外縁部での植栽がよい
			○		○							環境施設帯の樹木の添景等に群植するとよい 徒長枝に対し定期的な剪定を要す
					○							植樹帯では数株ずつの群植がよい
			○					○				植樹帯では数株ずつの群植がよい 自然樹形を活かしたい
			○	○								植樹帯等で遮断を必要とする寄植によい
							○					道路脇や広場等外縁部での植栽がよい 剪定は耐えるが自然樹形を活かしたい
					○							道路脇や広場等外縁部での植栽がよい 剪定は耐えるが自然樹形を活かしたい
			○									植樹帯等で遮断を必要とする寄植によい 剪定等は花が終わった後に行うとよい
			○	○								植樹帯等で遮断を必要とする寄植によい 暖地での植栽は控えた方がよい

(注 1) ヒイラギナンテンは、「生態系被害防止外来種リスト」(H28.3)(環境省・農林水産省)に揚げられており、使用には注意が必要である。

(注 2) 園芸品種は、特定の植物を交配や選抜などして人が作り出した品種。上記の在来種・外来種・園芸品種の分けも一概に判断しきれない場合がある。

(注 3) 環境施設帯：植樹帯、歩道、副道等で構成される幹線道路における沿道の生活環境を保全するための部分

10 街路樹の特性一覧表【地被類】

樹木名	樹木特性	樹高(m)
コウライシバ (芝)	イネ科シバ族 多年生 在来種 ノシバより繊細で密生した芝生を形成する 冬は休眠期を向える 湿気に弱い 刈込みににより枯死葉の堆積する層がしやすい 張芝による施工が一般	—
ノシバ (芝)	イネ科シバ族 多年生 在来種 山地等に自生 庭園や公園でよく植えられる 冬は休眠期を向える やせ地で生育し乾燥に耐える 刈込みににより枯死葉の堆積する層がしやすい	—
ヘデラ・カナリエンシス (つる植物)	ウコギ科キヅタ属 常緑 外来種 ヘデラ類の中では葉が大きい 斑入りの多様な品種がある 性質強健で成長は速い 肥沃な土壌を好む 日陰にも適応できる	—
ピンカマジョール (つる植物) (ツルニチニチソウ)	キョウチクトウ科ツルニチニチソウ属 常緑 外来種 茎が地表を這い、その説から根を下ろし広がる 春から初夏に青や白の花をつける 斑入りの品種等多数ある 日陰でも対応できる	—
シバザクラ (地被植物)	ハナシノブ科フロックス属 常緑 外来種 4～5月にサクラに似た淡い桃、赤、紫等の花を咲かせる 枝分かれし地面を覆いつくす 乾燥に強い シバほど踏圧には強くない 株が混むと枝枯れすることがある	—
ヒベリカム (地被植物) (キンシバイなど)	オトギリソウ科オトギリソウ属 常緑 外来種 世界中に分布し形態は多岐にわたる野生種とその園芸品種を含めた総称 6～7月に鮮やかな黄色い花が咲く 肥沃な土壌を好む 病中害は少ない	1
リュウノヒゲ (地被植物)	ユリ科ジャノヒゲ属 常緑 在来種 山地等に自生 株立ちし葉は細長い 短い茎が伸び新たな株をつくる 淡紫色の花と青い実はいよ 密生すると雑草が入りにくい 小型変種にタマリユウがある	1
ヤブコウジ (地被植物) (ジュウリョウ)	サクラソウ科ヤブコウジ属 常緑 在来種 山地等に自生 斑入りの園芸種が江戸時代から育成される 果実は5～6mmの球形 センリョウなどとともに正月の縁起物 日陰でも生育する 地下茎を伸ばしてふえる	1
ヤブラン (地被植物)	キジカクシ科ヤブラン属 常緑 在来種 山地等に自生 園芸品種も多い 一年中ほぼ同じ草姿 細長くしなやかな葉 青紫の小さな花と黒い(ジャノヒゲは青紫)実が美しい 性質強健 土壌適合範囲も広い	1
コグマザサ (竹笹類)	イネ科ササ属 常緑 在来種 クマザサの小型種 葉の縁白い隈はクマザサほど明瞭でない 肥沃な土壌好む 移植は困難でコンテナ苗を用いる 密生すると雑草は入りにくい	1

出典「道路緑化計画の手順」「道路の樹木」を参考に作成

これまでの採用樹種（単木の利用除く）及び今後検討できる主な樹種を掲載（これ以外は別途検討）

樹形	排気ガスに強い	耐乾性	耐寒性	風に強い	剪定に強い	剪定に弱い	成長が速い	成長が遅い	鳥が集まる	害比較少ない	比較的管理	備考
		○			○							グランドカバーとして美しいが、適宜刈込みを行い枯死葉を除去する必要がある。 肥料過多による病虫害に注意
		○			○							グランドカバーとして美しいが、適宜刈込みを行い枯死葉を除去する必要がある。
		○			○							高木の根締め等の地被としても利用できる つる類なので必要範囲外では切断を要す ウドンコ病に注意
		○	○		○							高木の根締め等の地被としても利用できる つる類なので必要範囲外では切断を要す
												花が美しくグランドカバーとしてよい 人の入込み防止、秋の株分け・植栽に配慮する
												花が美しく洋風イメージのグランドカバーとしてよい
		○	○								○	グランドカバーのほか、日陰の緑化、散策路の縁など利用できる
		○	○								○	グランドカバーのほか、日陰の緑化、散策路の縁など利用できる
		○	○							○	○	グランドカバーのほか、日陰の緑化、散策路の縁など利用できる
		○	○		○						○	グランドカバーのほか、歩道沿いの修景等により

（注 1）ツルニチニチソウは、「生態系被害防止外来種リスト」（H28.3）（環境省・農林水産省）に揚げられており、使用には注意が必要である。

（注 2）園芸品種は、特定の植物を交配や選抜などして人が作り出した品種。上記の在来種・外来種・園芸品種の分けも一概に判断しきれない場合がある。

（注 3）環境施設帯：植樹帯、歩道、副道等で構成される幹線道路における沿道の生活環境を保全するための部分

11 樹種選定の例

例-1

位置：東毛地区〇〇市内市街化区域
環境：暖地性、季節風強い、宅地等、畑点在
施設等：小学校、市民会館、道路制約あり

作成者①： (作成年度)
作成者②： (作成年度)
作成者③： (作成年度)

街路樹設置調査票

路標名(工区名)	(主) ●●××線(□□工区)		所在地	〇〇市〇〇町
区間設定	起： ××交差点(××線との交差) ～ 終： □□橋(□□町地内)			
基礎調査	道路区分(種級)	4種1級 (見直し後) 見直し無し		
	周辺地形	平地が続く、小河川が比較的多く横断する		
	周辺植生状況	クスノキ シラカシ スダジイ コナラ 等が生育良好		
	植栽区分(P.3-7)	I II III		
	エリア区分(P.3-7)	低地 台地 丘陵地 山地		
	既存道路及び周辺街路樹	イタヤカエデ ユリノキ ツツジ類 サザンカ		
	市町村の木・巨木等	市の木：アカマツ 市の花：ツツジ 大ケヤキ カシグネ		
	市町村方針・法的条件	特になし		
	地元協力体制	□□町自治会による道路清掃(年2回程度)		
	その他、特記事項	・市街化区域、近年宅地化が進んでいる。 ・ただし路線区間のうち、一部に畑が点在する。		
STEP I	地区区分	景観形成地区 → 個別に検討 ● 歴史・文化施設 (施設・地区名称：) ● 県庁・役場 図書館 美術館 大規模ホール 病院 駅前広場 都市公園 (施設名称：) ● シンボル道路 (施設・地区名称：)		
		市街地等 郊外・山間部 → 設置・樹木の区分の判定 ● 駅周辺 (施設名称：) ● 通学路 (施設名称： ●●小学校) ● 歩行者自転車量(推定) 200人台/12h： 以上 以下		
		設置・樹木の区分 中高木 寄植 設置(検討)なし		
		二次検討へ(道路全体設計の中で検討)		
	道路全体設計における検討	合意形成(地域ニーズ)	景観への配慮(道路全体)	・街路樹による質の高い道路空間の創出
			沿道状況等	・整備済み区間においてユリノキが植樹されている。寄植は未整備 ・接続市道においてツツジの寄植がされている。
		評価項目	(項目)	(対応基本方針)
			歩行者の安全確保 良好な景観を形成・維持する	市街地のため寄植での対応 市街地のため、街路樹を整備する
			比較案への反映	・一次検討の内容(中高木、寄植)の整備を基本案とする。 ・安全確保について、横断防止柵等の代替施設の提示をする。 ・中高木を設置しない案を提示する。
	その他意見等	・整備済み区間の状況から、街路樹の維持管理に対する意見があった(見栄えが悪い、落ち葉の対応) ・一方で華やかな(花の咲く)街路樹(寄植等)の設置の意見があった。		
合意形成により決定(道路全体設計の中で)				
設置・樹木の区分の決定	中高木 寄植 設置なし			
コメント(決定理由等)	基本案で合意。良好な景観を形成するため、落ち葉はきの負担の少ない樹種選定、維持管理の徹底で対応。			

設置する箇所は、Step II へ

合意形成② 候補案の選定
※各観点より候補樹種を洗い出し、その
上で総合的に候補案を選定

合意形成② 住民への説明
候補案の選定理由、
メソッド・デメソッドを説明

STEP II	➡ 基礎調査より		I II III 低地 台地 丘陵地 山地					
	①現地の風土にあった樹種の検討 (参考資料P5、6頁参照)	条件	周辺にはクスノキやシラカシがあり、比較的温暖な地域と思われる					
		高木	アラカシ シラカシ ケヤキ スダジイ コナラ クスノキ	中木	ヤブツバキ ネズミモチ	(低 寄 木 植)	カンツバキ アオキ	
	専門家意見							
	②地域特性や地元の意向による樹種の検討 (参考資料P7～10頁参照)	条件	昔から防風林として農家のカシゲが親しまれている 病虫害に比較強い樹種を検討					
		高木	シラカシ アラカシ ケヤキ クスノキ マテバシイ ヤマモモ	中木	-	(低 寄 木 植)	オオムラサキ ツツジ ツゲ	
	地元意見・重視する観点		← キーパーソンヒアリング、地域ニーズ意見等の他、事前アンケート結果から、地元が何を重視しているのかを把握する					
	③将来のあり方や維持管理からの樹種の検討 (参考資料P11～30頁参照)	条件	電柱や信号機が多く、樹高を抑え剪定に強い樹種としたい また、季節風対策として常緑の深根性樹種が望ましい					
		高木	シラカシ マテバシイ スダジイ コブシ ヤマモモ	中木	ネズミモチ サンゴジュ	(低 寄 木 植)	オオムラサキ ツツジ ツゲ	
	専門家意見							
総合的に候補案を選定								
合意形成②	選択の観点 (重視する点)	現存する樹種、地域住民の意見、季節風、利用者の安全な通行等を総合的に考えると						
	専門家意見							
	総合的に見た適正樹種	高木	シラカシ スダジイ マテバシイ	中木	ネズミモチ ヤブツバキ	(低 寄 木 植)	オオムラサキ ツツジ ツゲ	
	その他、特記事項							
地元に提示し、合意形成を図る (合意形成②)								
樹種の決定	総合的に見た適正樹種	高木	シラカシ	中木		(低 寄 木 植)	オオムラサキ ツツジ	
	その他、特記事項							

STEP III	設置基準	植樹帯・樹の幅	1.5mを原則 困難な場合、根張り環境を確保し1.0m迄軽減する	
		交差点等の制約	ガイドライン 3.4.1(2)による	
		特記事項	学校等で道路沿いに高木植栽している区間は、設置しない	
	植栽間隔	高木	樹木の将来の姿をイメージし、10mを基本とする	
		寄植	6株/㎡とする	
		特記事項		
	基盤整備について			
工事への申し送り事項等				

11 樹種選定の例

例-2

位置：県央〇〇市中心街
環境：商店街 周辺には緑がない
施設等：付近には博物館 道路規制あり

街路樹設置調査票

作成者①： (作成年度)
作成者②： (作成年度)
作成者③： (作成年度)

路線名(工区名)	一般県道〇〇線		所在地	〇〇市南町1丁目地内	
区間設定	起： ××交差点(××線との交差) ~ 終： □□橋(□□町地内)				
基礎調査	道路区分(種級)	●種●級 (見直し後) 見直し無し			
	周辺地形	〇〇川右岸から300mの平野部に位置する			
	周辺植生状況	コナラ ケヤキ シラカシ スダジイ等が生育良好である			
	植栽区分(P.3-7)	I II III			
	エリア区分(P.3-7)	(低地) 台地 丘陵地 山地			
	既存道路及び周辺街路樹	イチヨウ ハナミズキ ケヤキ ツツジ類 ツゲ			
	市町村の木・巨木等	市の木：ケヤキ 大ケヤキ 〇〇寺のシダレヤナギ			
	市町村方針・法的条件	「〇〇緑の基本計画」で市街地の街路樹設置を推進している			
	地元協力体制	落葉はきや樹木の異状の連絡等、沿線住民・事業者での協力体制はあるものの、除草など多くの手間は望んでいない			
	その他、特記事項	路線沿いに商店、飲食店、銀行等事業所あり。又は進出予定			
STEP I	地区区分	景観形成地区 → 個別に検討 ● 歴史・文化施設 (施設・地区名称：) ● 県庁・役場 図書館 美術館 大規模ホール 病院 駅前広場 都市公園 (施設名称：) ● シンボル道路 (施設・地区名称：)			
		市街地等 郊外・山間部 → 設置・樹木の区分の判定 ● 駅周辺 (施設名称： ●●駅から500m) ● 通学路 (施設名称：) ● 歩行者自転車量(推定) 200人台/12h： (以上) 以下			
		設置・樹木の区分 (中高木) 寄植 設置(検討)なし			
		二次検討へ(道路全体設計の中で検討)			
		一次検討			
	道路全体設計における検討	合意形成(地域ニーズ)	景観への配慮(道路全体)	街路樹による質の高い道路空間の創出	
			沿道状況等	周辺の道路では、イチヨウを植栽、強剪定を実施	
		評価項目	(項目)	(対応基本方針)	
			良好な道路空間の創出 歩行者の安全確保	人を引きつけるような街路樹を整備 安全対策に横断防止策等を設置	
			比較案への反映	・一次検討の内容(中高木)の整備を基本案とする。 ・中高木を設置しない案に提示する。	
その他意見等	・彩り豊かな樹木の希望が多い。 ・管理協力への意向はあるが、多くを望んでいない。		→ Step II ②へ反映		
合意形成により決定(道路全体設計の中で)					
設置・樹木の区分の決定	(中高木) 寄植 設置なし				
コメント(決定理由等)					
設置する箇所は、Step II へ					

合意形成② 候補案の選定
※各観点より候補樹種を洗い出し、その上で総合的に候補案を選定

合意形成② 住民への説明
候補案の選定理由、メニュー・デメニューを説明

STEP II	➡ 基礎調査より		I II III (低地) 台地 丘陵地 山地						
	①現地の風土にあった樹種の検討 (参考資料P5、6頁参照)	条件	周辺ではシラカシやスダジイ、ケヤキ、コナラなどが多く見られる						
		高木	ケヤキ シラカシ コナラ スダジイ トチノキ カツラ ヤマボウシ	中木	ヤブツバキ エゴノキ サザンカ ヤマブキ	(低寄木植)	リュウノヒゲ ヤブラン		
	専門家意見								
	②地域特性や地元の意向による樹種の検討 (参考資料P7～10頁参照)	条件	利用者が多いことと地元の意向から、季節を感じさせる樹木、彩豊かな樹木を検討したい						
		高木	コブシ イチョウ ヤマボウシ カツラ アオギリ ハナミズ キ トウカエデ	中木	キンモクセイ シャリンバイ ヤブツバキ サザンカ	(低寄木植)	リュウノヒゲ ヤブラン		
	地元意見・重視する観点		← キーパーソンヒアリング、地域ニーズ意見等の他、事前アンケート結果から、地元が何を重視しているのかを把握する						
	③将来のあり方や維持管理からの樹種の検討 (参考資料P11～30頁参照)	条件	電柱や信号機が多く、樹高を抑え剪定に強い樹種としたい 比較的管理のしやすい樹木を選びたい						
		高木	コブシ アキニレ ヤマボウシ アオギリ ヤマモモ	中木	シャリンバイ サザンカ キンモクセイ	(低寄木植)	ジャノヒゲ ヤブラン ヘデラ類		
	専門家意見								
総合的に候補案を選定									
候補意形成選成②	選択の観点 (重視する点)	現存する樹種、地域住民の意見、歩行者と車両の安全な通行等を総合的に考え、高木には季節感のある樹木を複数植えたい							
	専門家意見								
	総合的に見た適正樹種	高木	コブシ アキニレ ヤマボウシ アオギリ ヤマモモ	中木	キンモクセイ サザンカ	(低寄木植)	リュウノヒゲ ヤブラン		
	その他、特記事項	落葉の高木、常緑の中木を交互に設置 寄植は行わず地被類を植栽							
地元に提示し、合意形成を図る (合意形成②)									
樹種の決定	総合的に見た適正樹種	高木	コブシ	中木	キンモクセイ	(低寄木植)	リュウノヒゲ		
	その他、特記事項	リズム感を持たせるため、高木と中木を交互に植栽する							

STEP III	設置基準	植樹帯・樹の幅	1.5mを原則 困難な場合、根張り環境を確保し1.0m迄軽減する
		交差点等の制約	ガイドライン 3.4.1(2)による
		特記事項	
	植栽間隔	高木	将来の姿をイメージし、2種の樹木を8mを間隔を基本に植栽する
		寄植	6株/㎡とする
		特記事項	商店や飲食店及び駐車場の出入口に配慮し、柔軟に間隔をとる
	基盤整備について		
工事への申し送り事項等			

② 住民への説明
合意形成
候補案の選定理由、
メリット・デメリットを説明

11 樹種選定の例

例-3

位置：利根沼田地区〇〇町〇〇駅周辺

環境：周辺自然豊か、落葉広葉樹主体

施設等：〇〇駅、付近に〇〇温泉、観光農園など

作成者①： (作成年度)

作成者②： (作成年度)

作成者③： (作成年度)

街路樹設置調査票

路線名(工区名)	主要地方道〇〇線		所在地	〇〇町本町1丁目地内		
区間設定	起： ～ 終：					
基礎調査	道路区分(種級)	●種●級 (見直し後)				
	周辺地形	路線の左右1km先からは丘陵地・山地へと広がる				
	周辺植生状況	コナラ ヤマザクラ トチノキ スギ(人工林)等が生育良好				
	植栽区分(P.3-7)	I II III				
	エリア区分(P.3-7)	低地 台地 丘陵地 山地				
	既存道路及び周辺街路樹	イチヨウ ハナミズキ トチノキ サルスベリ ツツジ類				
	市町村の木・巨木等	市の木：サクラ 〇〇神社の大スギ リンゴの産地				
	市町村方針・法的条件	風致地区				
	地元協力体制	沿線住民の協力は難しく、町の観光協会やボランティアに期待したい				
	その他、特記事項	駅周辺の再開発に伴う大改修、駅前には植栽スペースがある				
STEP I	地区区分	景観形成地区 → 個別に検討 ● 歴史・文化施設 (施設・地区名称：) ● 県庁・役場 図書館 美術館 大規模ホール 病院 駅前広場 都市公園 (施設名称：) ● シンボル道路 (施設・地区名称：)				
		市街地等 郊外・山間部 → 設置・樹木の区分の判定 ● 駅周辺 (施設名称： ●●駅) ● 通学路 (施設名称：) ● 歩行者自転車量(推定) 200人台/12h： 以上 以下				
		設置・樹木の区分 中高木 寄植 設置(検討)なし				
		二次検討へ(道路全体設計の中で検討)				
	道路全体設計における検討	合意形成(地域ニーズ)	景観への配慮(道路全体)	地区特性にふさわしい街路樹の検討		
			沿道状況等	当該路線は現在、街路樹はなし。周辺の道路では、ハナミズキやサルスベリを植栽		
			評価項目	(項目) 周辺環境との調和 魅力の創出	(対応基本方針) 地区特性を考慮した高木の設置 駅前ロータリーのおもてなし機能の整備	
			比較案への反映	・一次検討の内容(中高木)の整備を基本案とする ・魅力を創出できるよう見栄えのよい高木の案を提示する ・中高木を設置しない案を提示する		
			その他意見等	・地域にマッチした樹木の設置がよいとの意見があった ・沿道の住民が少ないので、住民による管理協力への負担は少なくとの意向が多い		
	Step II ②へ反映					
合意形成により決定(道路全体設計の中で)						
設置・樹木の区分の決定	中高木 寄植 設置なし					
コメント(決定理由等)	基本案で合意、地区特性にふさわしい樹種選定 駅前等への配慮を行う					
設置する箇所は、Step II へ						

STEP II	➡ 基礎調査より		条件		Ⅰ Ⅱ Ⅲ		低地 台地		丘陵地 山地			
	①現地の風土にあった樹種の検討 (参考資料P5, 6頁参照)		高木		ケヤキ コナラ イロハモミジ トチノキ カツラ ヤマボウシ サワグルミ		中木		サザンカ マユミ エゴノキ			
	専門家意見											
	②地域特性や地元の意向による樹種の検討 (参考資料P7～10頁参照)		条件		観光客も多いことから、周辺環境と調和し群馬の魅力を伝えられる、美しい樹形の樹種を選びたい							
			高木		ケヤキ トチノキ カツラ イチョウ サクラ ハルニレ モミジバフウ		中木		- (低 寄 木 植)		リュウノヒゲ ヤブラン コクマザサ	
	地元意見・重視する観点		← キーパーソンヒアリング、地域ニーズ意見等の他、事前アンケート結果から、地元が何を重視しているのかを把握する									
	③将来のあり方や維持管理からの樹種の検討 (参考資料P11～30頁参照)		条件		樹木の自然樹形がよく、比較的管理しやすい樹種としたい 駅前には観光客のおもてなしにシンボルツリーを設ける							
			高木		ケヤキ トチノキ カツラ イチョウ ハルニレ モミジバフウ		中木		シャリンバイ サザンカ		(低 寄 木 植) リュウノヒゲ ヤブラン コクマザサ	
	専門家意見											

合意形成② 候補案の選定
※各観点より候補樹種を洗い出し、その上で総合的に候補案を選定

総合的に候補案を選定											
候補案形成選定②	選択の観点 (重視する点)	現存する樹種、地域住民の意見、利用者の安全とよりの創出等を総合的に考え、高木には見栄えのある樹木を選択したい									
	専門家意見										
	総合的に見た適正樹種	高木	ケヤキ トチノキ カツラ イチョウ	中木	サザンカ マユミ	(低 寄 木 植)	リュウノヒゲ ヤブラン コクマザサ				
	その他、特記事項										
地元に提示し、合意形成を図る (合意形成②)											
樹種の決定	総合的に見た適正樹種	高木	カツラ	中木	サザンカ	(低 寄 木 植)	ヤブラン				
	その他、特記事項										

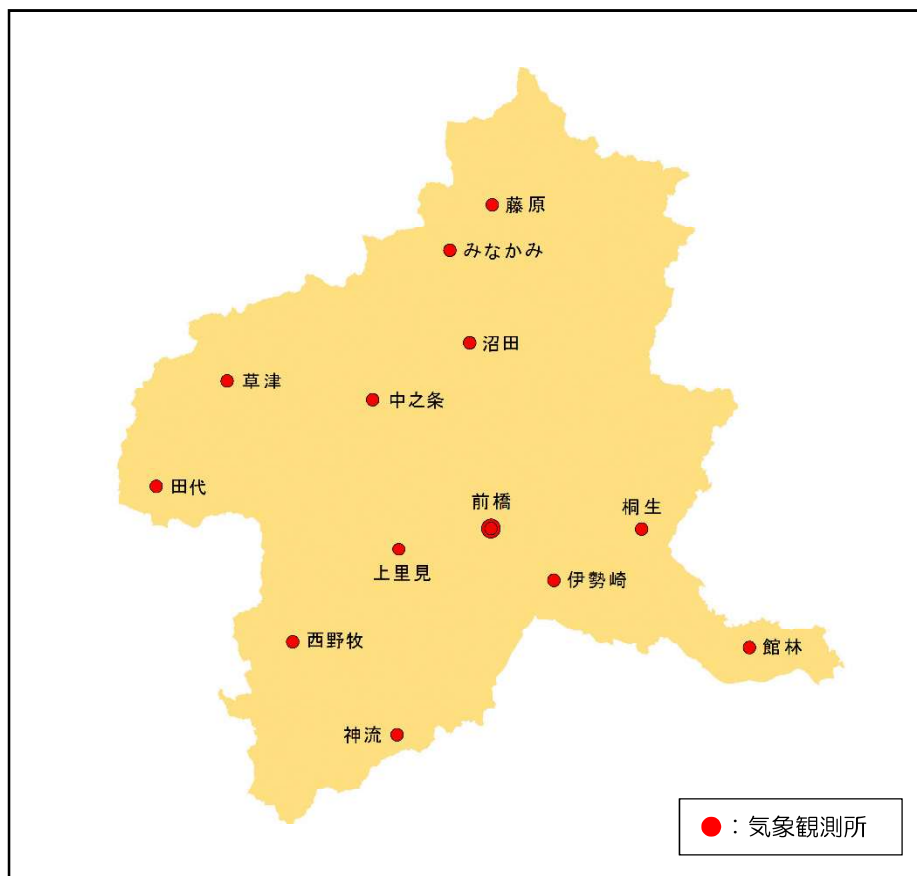
合意形成② 住民への説明
候補案の選定理由、メニュー・ナメニューを説明

STEP III	設置基準	植樹帯・樹の幅	1.5m以上とする	
		交差点等の制約	ガイドライン 3.4.1(2)による	
		特記事項	駅前広場から県道へのつながりを感じさせるよう、配置等を工夫する	
	植栽間隔	高木	樹木の将来の姿をイメージし、12mを基本とする	
		寄植		
		特記事項		
	基盤整備について			
工事への申し送り事項等				

合意形成② 住民への説明
候補案の選定理由、
メリット・デメリットを説明

12 群馬県の気象

群馬県は気温の年・日較差が大きい典型的な内陸性気候であるが、その地形的特性によって、複雑な気候区が存在している。



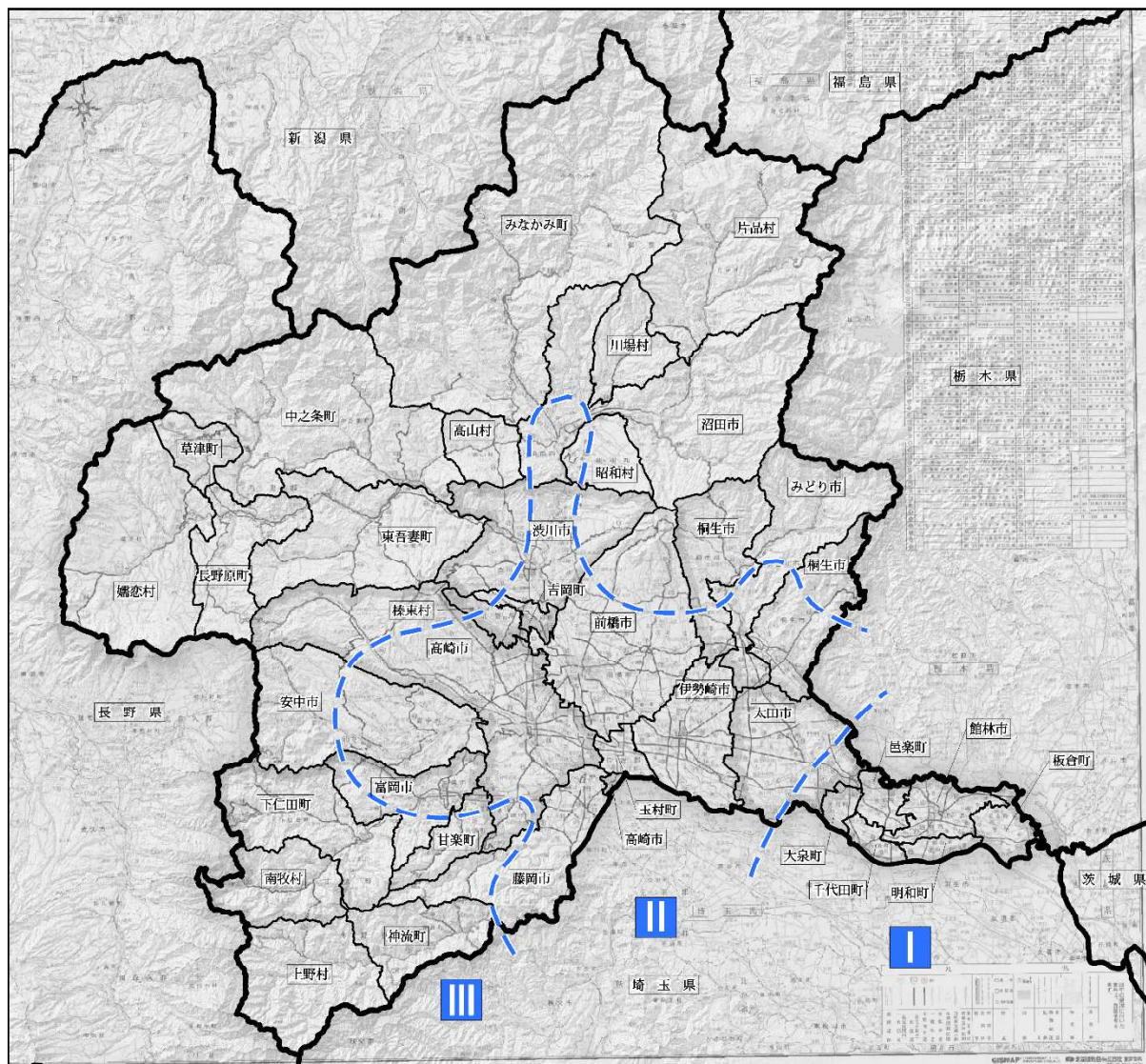
地点	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	風速 (m/s)
前橋	14.6	40.0	-9.0	1248.5	2.8
草津	7.4	31.2	-15.9	1728.7	1.3
中之条	11.9	37.5	-12.5	1290.8	1.2
沼田	11.6	37.4	-14.0	1124.9	2.2
伊勢崎	14.6	39.8	-8.5	1205.2	2.5
桐生	14.3	39.0	-8.1	1243.9	1.8
館林	14.9	40.3	-8.8	1184.6	2.2
水上	10.3	35.8	-13.1	1733.7	1.8
藤原	8.9	35.0	-16.7	1851.3	0.7
上里見	13.6	40.3	-9.3	1374.0	1.6
神流	11.9	38.7	-11.6	1238.4	1.0
田代	7.2	30.2	-16.4	1506.6	1.9
西野牧	12.0	37.9	-9.7	1274.1	1.1

気象庁 HP より（統計期間 1981 年～2010 年）

13 植栽区分

東毛地区の温暖な平地部における照葉樹林帯から、県北部を主とする亜寒帯林まで、多種多様な植物分布が存在している。

平均気温と植物分布を基に 3 つに区分することができる。

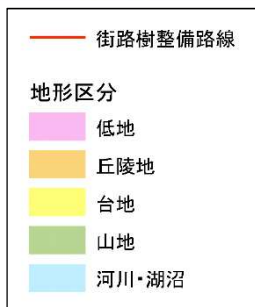


- I 標高 100m 以下でヤブツバキクラス域の照葉樹林帯（気候は温暖な地域）
- II 標高は約 400m 以下の地区でヤブツバキクラス域からブナクラス域への移行帯の地域（気候はやや温暖）
- III ブナクラス域～トドマツクラス域までを含む標高 500m 以上の地域で山地帯から亜寒帯林

出典「道路緑化計画の手順」

「この地図は、国土地理院発行の数値地図 50m メッシュ（標高）を使用し作成したものである。」

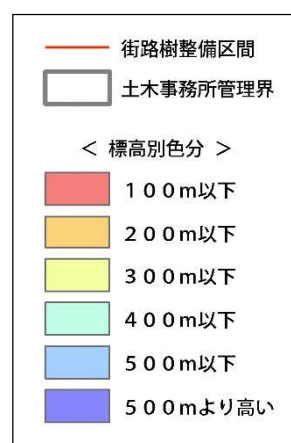
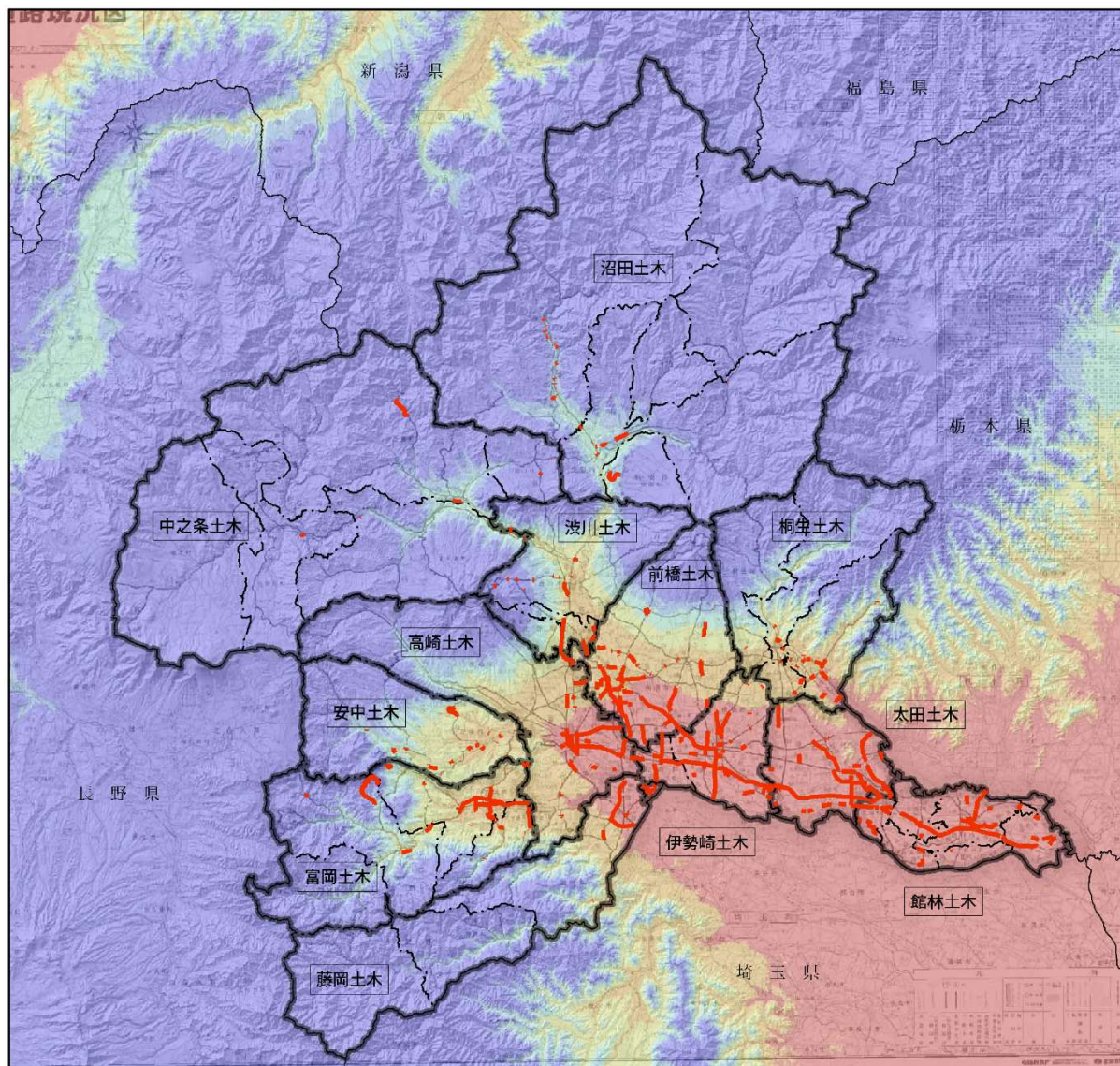
群馬県では、主に東毛から前橋にかけての低地、赤城山、榛名山の麓に広がる丘陵地、台地、そして県内を多く占める山地から成る。



參考資料 - 39

15 標高

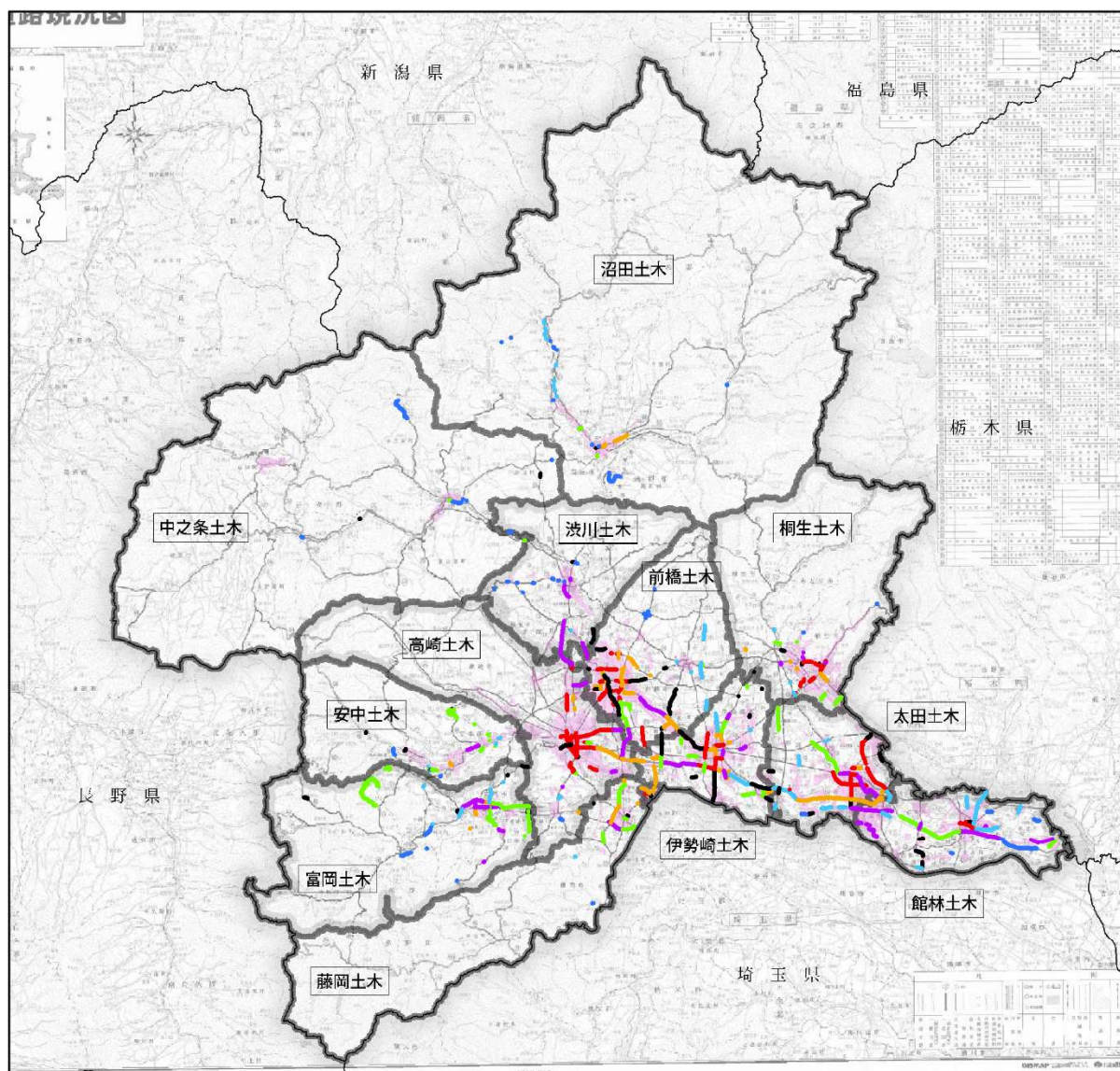
標高 100m 以下から 2500m を超える白根山や浅間山まで下記の図のように広がっている。



「この地図は、国土地理院発行の数値地図 50m メッシュ（標高）を使用し作成したものである。」

16 歩行者・自転車交通量

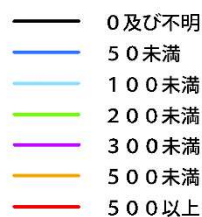
下記の図は、街路樹が設置されている区間を交通量別に示したものである。主要市街地を中心とするエリアに交通量が多い。



分類	平日昼間12時間上下合計			区間延長 (Km)	街路樹 割合
	歩行者 (人数)	自転車 (台数)	計 (人・台)		
0 及び 不明	0	0	0	43.43	13%
500 未満	606	432	1,038	22.24	6%
1000 未満	1,507	3,331	4,838	34.92	10%
2000 未満	5,260	9,984	15,244	64.61	19%
3000 未満	7,640	16,139	23,779	61.23	18%
5000 未満	7,218	22,171	29,389	51.31	15%
5000 以上	60,264	103,912	164,176	65.21	19%
計	82,495	155,969	238,464	342.95	

平成27年度
全国道路・街路交通情勢調査
一般交通量調査

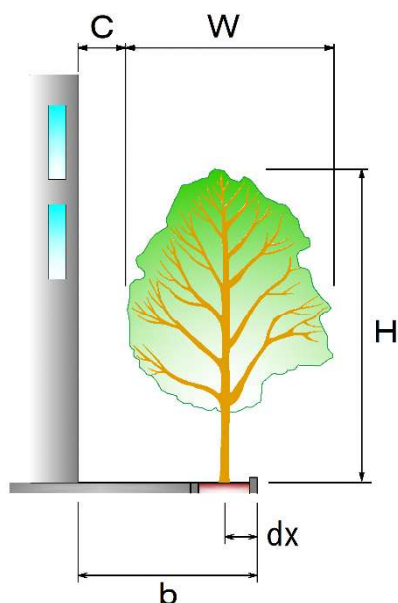
街路樹整備区間
<平日昼間12時間上下合計の歩行者類と自転車類の合計値>
(歩行者自転車/平日12h)



土木事務所管理界
用途地域

17 枝張り・樹高の算出

枝張り・樹高の算出は以下のとおり。



<伸長可能な枝張り>

$$W = (b - dx - C) \times 2$$

<樹高の計算>

$$H = W \div f$$

C：樹冠と建築物に必要な空間（クリアランス）

dx：幹と歩車道境界の間隔

f：樹高・枝張り比（図 2-4 参照）

<計算例>

条件：ケヤキ、歩道 3.5m、ビル街、dx=0.5m

$$W = (3.5 - 0.5 - 0.5) \times 2 = 5.0$$

$$H = 5.0 \div (0.5 \sim 0.7) = 10 \sim 7.0\text{m}$$

枝張り (W) = 5.0m

樹高 (H) = 7.0~10mとなる

出典「街路樹剪定ハンドブック」より作成

沿道土地利用分類	クリアランス
オープンスペース （公共空地）	C=0m
ビル街（専用商業）	C=0.5m
商店街（近隣商店）	C=1.5m
住宅地	C=0.5m
その他（工場など）	C=0m

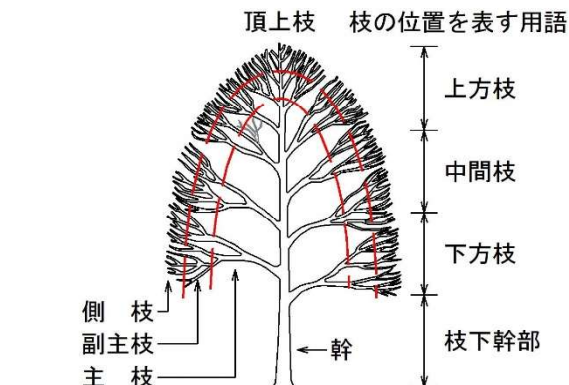
出典「道路緑化ハンドブック」より作成

樹形区分	樹種	樹高・枝張り比
円錐型 	イチョウ メタセコイア	0.2~0.4
卵円型 	シラカシ トウカエデ ハナミズキ プラタナス モミジバフウ ユリノキ	0.4~0.7
球型 	アキニレ エンジュ クスノキ マテバシイ	0.5~0.7
盃型 	ケヤキ トチノキ ナンキンハゼ ヤマボウシ ソメイヨシノ	0.5~0.7 1.0~

出典「道路緑化技術基準・同解説」より作成

18 剪定

(1) 枝の呼称



■樹形をつくる枝の呼称

【主 枝】

幹から出た枝で樹冠のもととなる太い枝

【副主枝】

主枝から分かれ、樹冠の肉付けとなる中程度の太さの枝

【側 枝】

副主枝から分かれ、樹冠の外縁を形作る細い枝

■位置を表す呼称

【頂上枝】

樹冠頂部の枝

【上方枝】

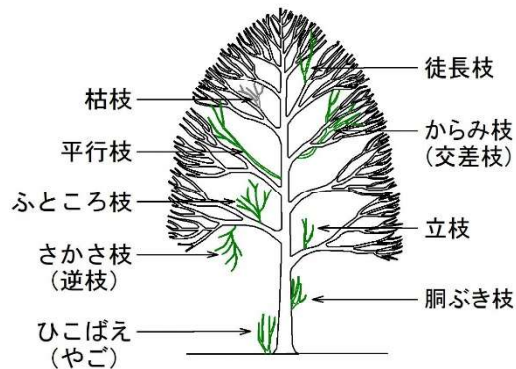
頂上枝を含めた樹冠の上部約 1/3 を形成する枝

【中間枝】

樹冠の中間部分を形成する枝

【下方枝】

樹冠の下部約 1/3 を形成する枝



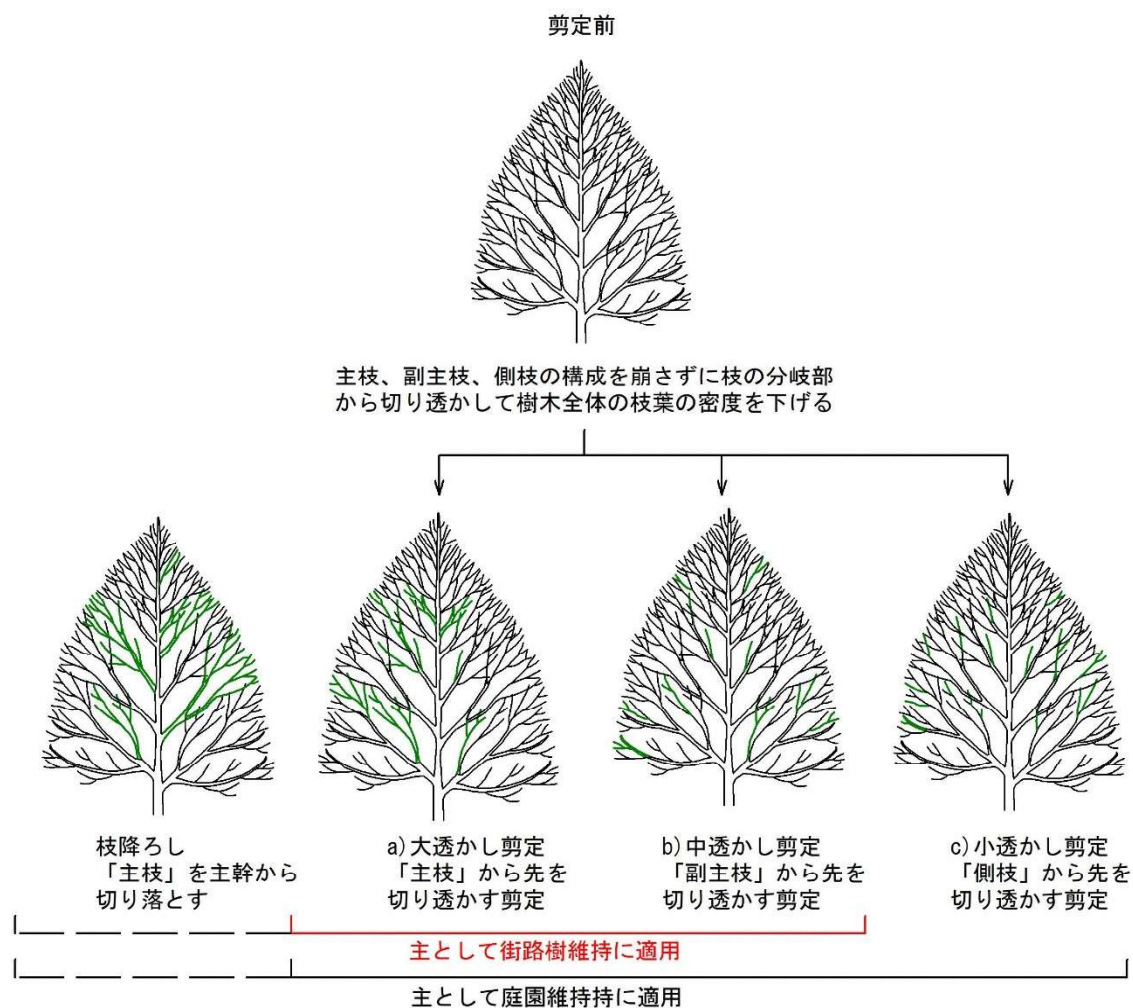
出典「街路樹剪定ハンドブック」より作成

(2) 剪定の手法

枝抜剪定	・混み合っている枝を間引いて枝葉の密度を下げる剪定。 ・樹形を保ったまま枝抜きができる。 ・「大透かし」「中透かし」「小透かし」がある。
切返剪定	・長い枝先を短い枝先に切り返す剪定。 ・樹冠をひとまわり小さくする目的で行う。
枝おろし剪定	・密度の高い混み枝や建築限界にかかる中枝や下枝などを、鋸などを用いて幹の付け根部分から切り落とす剪定法。
切詰剪定	・枝の途中で切除して短く詰め、そこから萌芽する新たな枝によって、樹冠を構成する目的で行う。 ・必要に応じて防腐剤を塗布。

出典「街路樹剪定ハンドブック」より作成

① 枝抜剪定



出典「街路樹剪定ハンドブック」より作成

大透かし剪定：樹形の骨格を形成している主枝の一部を含めた枝を間引く剪定で、主枝の先から副主枝にかけての太い枝を枝の分岐部から切り透かす。

中透かし剪定：枝の中間部分を構成する副主枝の一部を抜く剪定で、副主枝の分岐部から切り透かす。

小透かし剪定：樹冠を構成する枝先の側枝の一部を間引く剪定で、側枝の分岐部から先の長く伸びた枝を切り透かす。

② 切返剪定

■剪定前の樹形

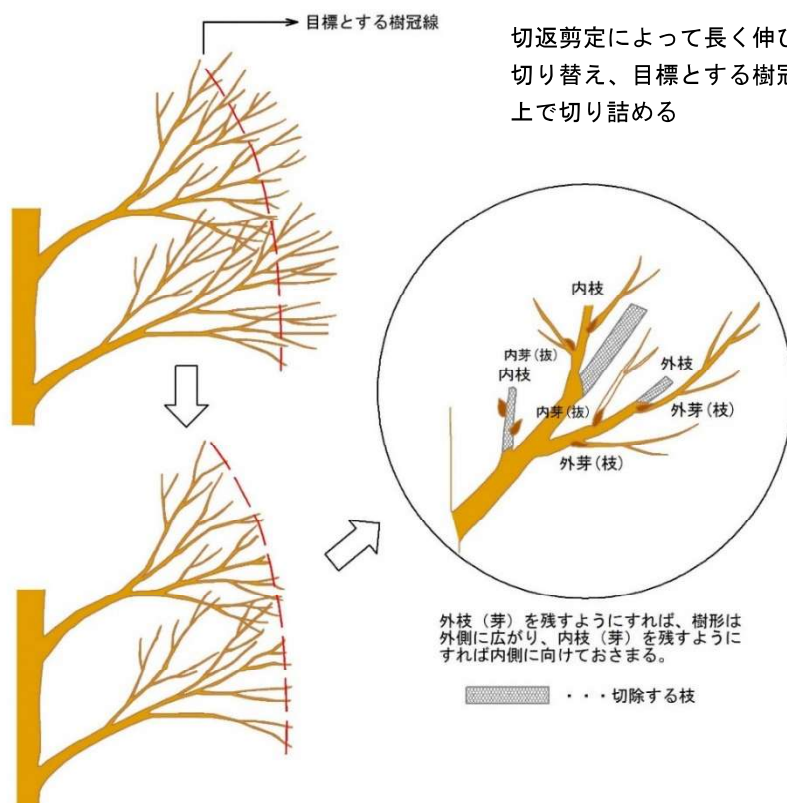
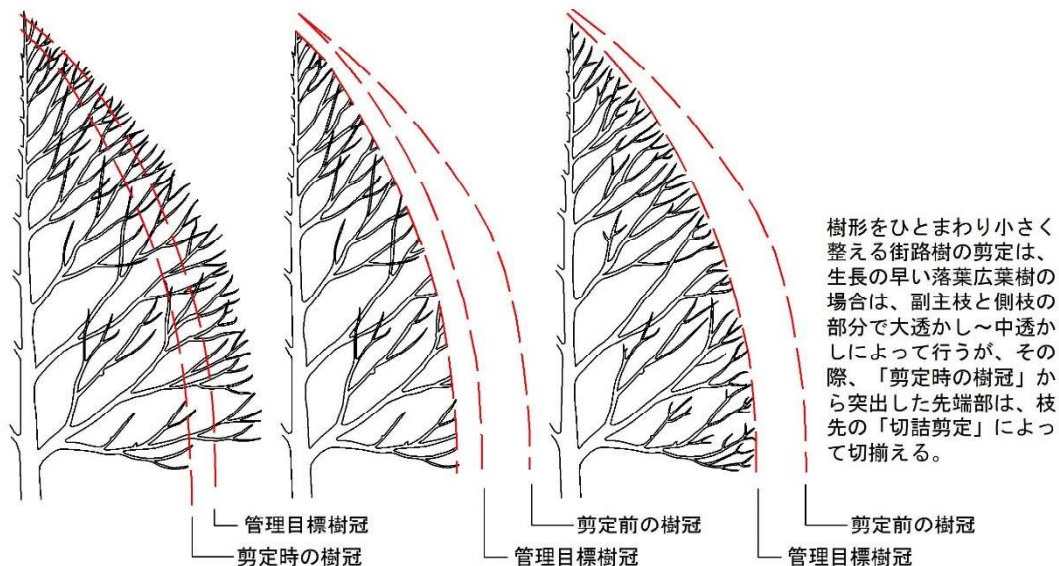
「管理目標樹冠」を想定し、「剪定時の樹冠」を決める

■剪定時の樹形

切返剪定による枝抜きと切詰剪定による側枝の切詰めによって剪定時の樹冠に縮小する

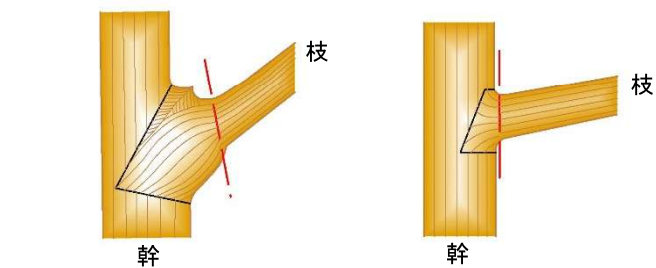
■管理目標の樹形

剪定後の萌芽によって剪定前の樹冠より一まわり小さな「管理目標樹形」がつくられる



出典「街路樹剪定ハンドブック」より作成

③ 枝おろし剪定

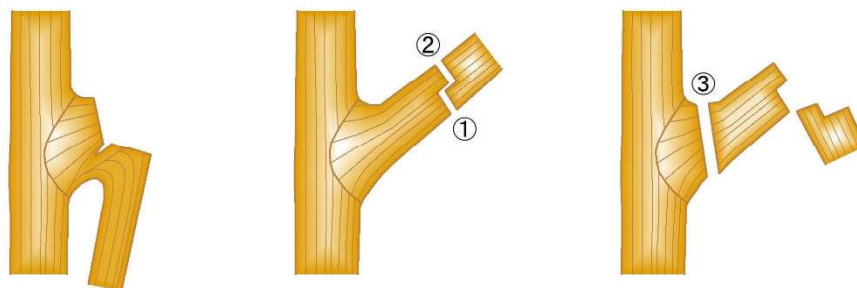


線で囲まれた部分が「枝の襟（ブランチカラー）」で、ここを傷つけずに点線部分から「二段切り」による枝降ろしする。「襟」の部分は、樹種によっては目立たないものもあるが、枝の付け根の広がり具合でおよその見当をつける。

一度に大枝を切ると、枝の重さでつけ根から裂ける

①に切り込みを入れて枝の裂けを防ぎ②2にノコギリを入れ、枝先を切り落とす

「枝の襟（ブランチカラー）」を傷つけない位置③で軽くなった残りの枝を切り落とす

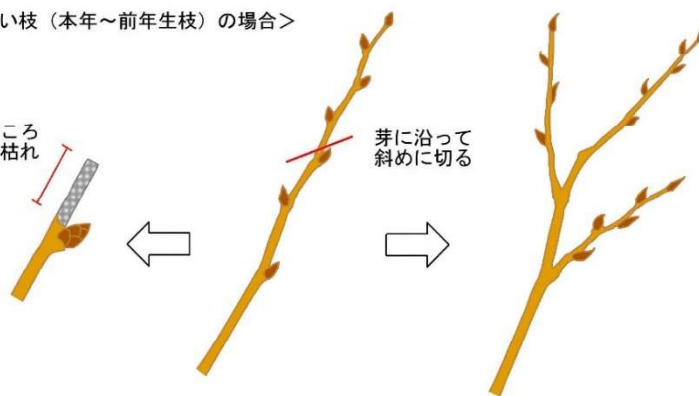


④ 切詰剪定

<定芽がある若い枝（本年～前年生枝）の場合>

芽から離れたところで切ると芽まで枯れ下がる

芽に沿って斜めに切る

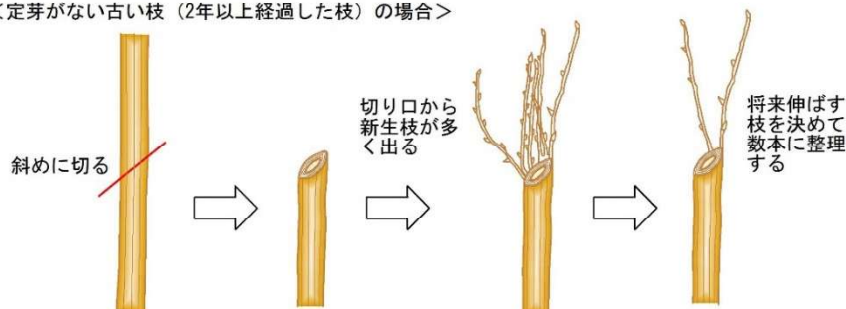


<定芽がない古い枝（2年以上経過した枝）の場合>

斜めに切る

切り口から新生枝が多く出る

将来伸ばす枝を決めて数本に整理する

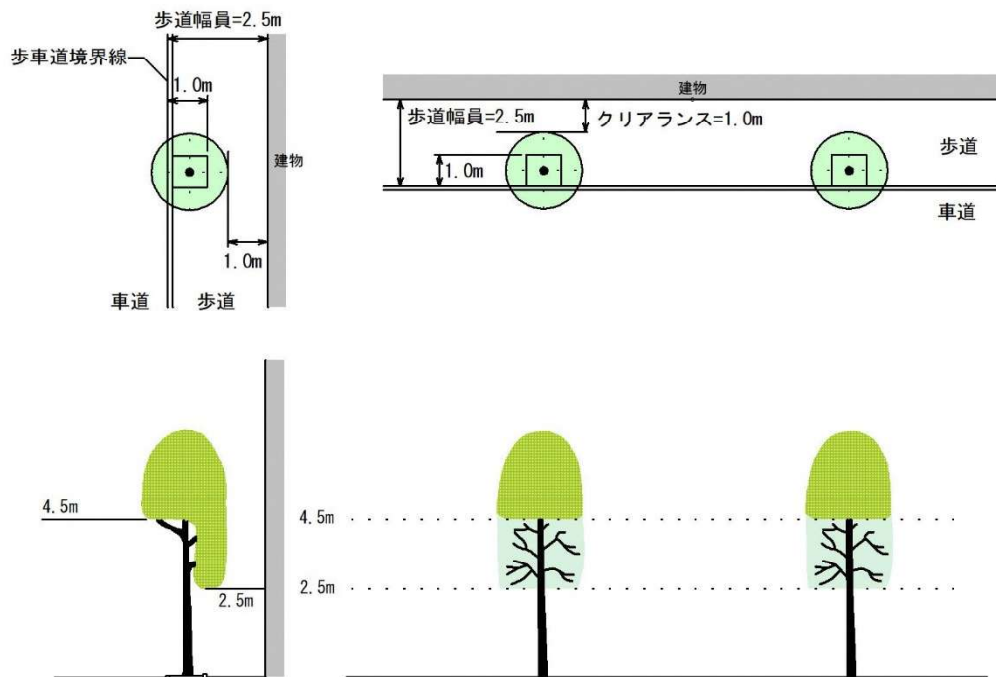


出典「街路樹剪定ハンドブック」より作成

<限られた空間に緑量を増やす検討>

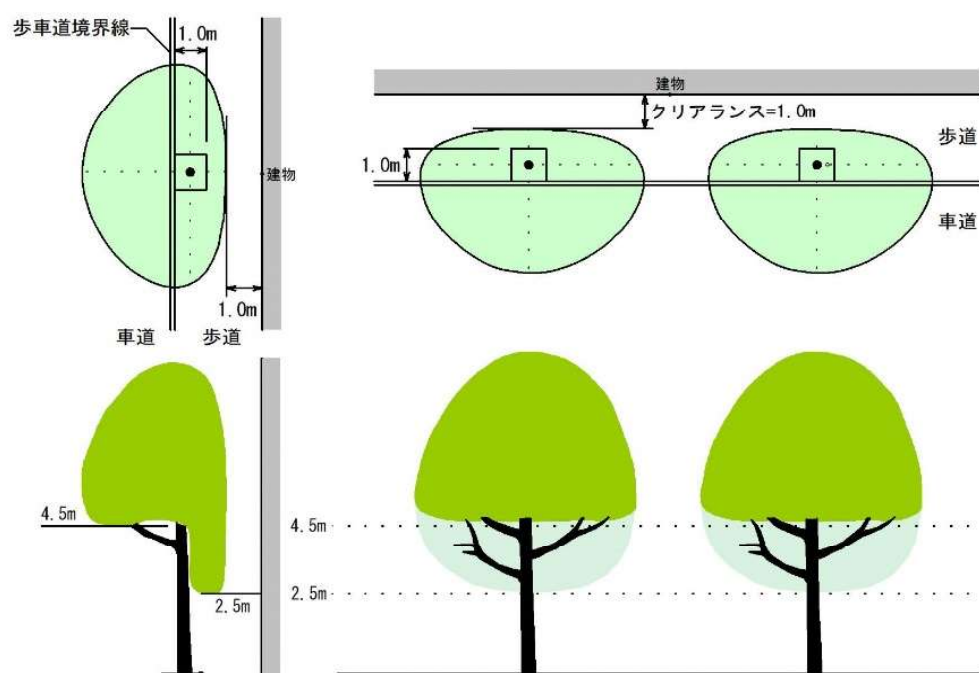
■従来型

四方への枝振りを均等にする従来型では、歩道幅員が狭くなると枝張りがごく小さくなり、緑量は貧弱になる。



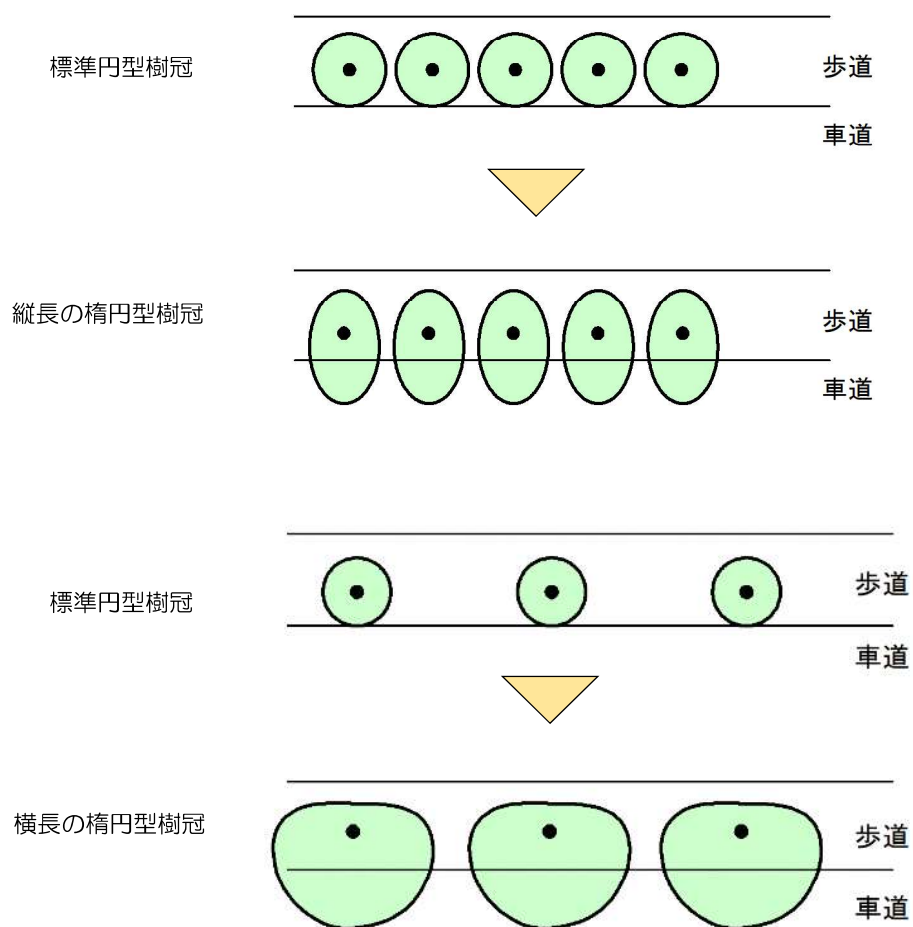
■緑量増加型

歩道側は歩道幅員に合わせて扁平横広とし、車道側により広い枝張りを確保することで、緑量は格段に増加する。



出典「街路樹剪定ハンドブック」より作成

「緑量増加型」は、円形樹冠にこだわらず、植栽間隔が広ければ横方向に、狭ければ縦方向に楕円形に樹冠を拡大することで緑量を増やすことができる。



出典「街路樹剪定ハンドブック」より作成

19 害虫

(1) 食葉性害虫

害虫	主加害樹	加害形態・発生様式	主な防除法
食葉性害虫	アメリカシロヒトリ (ヒトリガ科)	・雑食性で様々な樹種の葉を食害する。 ・孵化幼虫は枝先に集団で絹糸を張って袋状の巣を作り、葉肉のみを食害する。 ・成長すると独立するが、葉脈を残して全体を食害するため、発生量が多いと樹勢が低下する。 ・年に2回の発生。 ・樹皮の割れ目などで白色の繭を作り、その中で蛹態で越冬する。 ・成虫は5月中旬～6月中旬、7月下旬～8月下旬に出現する。 ・卵は葉に200～800粒の塊に産む。 ・老熟すると加害木から降り、樹皮の割れ目などに入って蛹化する。	・発生初期に白い袋状の巣を葉・枝ごと切除し処分する。 ・農薬を散布する。
	イラガ (イラガ科)	・多種の樹木の葉を食害する。 ・幼虫は刺毛があり、人体への二次被害がある。 ・年に1～2回の発生。繭内で越冬した幼虫は5月に蛹化する。 ・6月に羽化した成虫は葉面に1～2粒ずつ産卵する。 ・孵化幼虫は葉に小孔をあけて食害するが、成長すると葉縁から食害するようになる。繭は枝に作る。	・冬に枝の又などの繭を除去する。 ・農薬を散布する。
	クスサン (ヤママユガ科)	・雑食性でクスノキ、イチョウ、サクラ類など様々な樹種の葉を食害する。 ・大量発生して食害が激しくなると樹木全体の葉を食い尽くすため、樹勢が低下する。 ・年に1回の発生。 ・樹幹に生みつけられた卵で越冬し、4月ごろ孵化する。 ・6月下旬頃から老熟した幼虫が、かご状の繭をつくり、その中で蛹になる。繭は、その形と中が透けて見えることから「スカシダウラ（透かし炭）」と呼ばれる。 ・成虫は9月下旬頃から現れて、黄褐色で大型のガとなる。 ・枝や幹の分岐点に塊状に産卵する。	・夏季に繭を取り除いたり、冬季に卵塊を除去する。 ・孵化直後の幼虫は群生するため、葉を除去する。 ・農薬を散布する。
	チャドクガ (ドクガ科)	・葉を食い尽くすことがある。 ・毒毛を持ち、人体への二次被害がある。 ・年に2回の発生。枝や葉裏で卵塊の状態を越冬し、4月下旬に孵化する。 ・幼虫は4～6月と7～9月に出現する。前者の幼虫は新葉を食害するが、後者の幼虫は、葉肉だけを食べる。	・発生初期に葉や枝を切除し処分する。
	マイマイガ (ドクガ科)	・雑食性（広葉樹から針葉樹まで300種以上）で大型の幼虫が葉を食害する重要害虫である。 ・しばしば大発生することがあり、大きな被害となることもある。 ・年に1回の発生。 ・樹幹で卵塊の状態を越冬する。 ・4月頃に孵化して食害し、6月頃に樹上で蛹となる。 ・成虫は7～8月に出現し、樹幹などに200～300粒の淡黄色の卵を塊状に産み付け、表面に体毛を被う。	・幼虫を捕殺する。 ・樹幹の卵塊を除去する。 ・農薬を散布する。
	モンクロシャチホコ (シャチホコガ科)	・サクラにとときとき異常発生し、葉を食い尽くすことがある。 ・年に1回の発生。成虫は7～8月に出現して、葉裏に約30粒の卵を塊状に産み、8月下旬に孵化する。 ・幼虫は3齢まで集団で食害し、その後に分散する。10月ごろ地上に降り、土中で繭を作って蛹化し、蛹で越冬する。	・発生初期に葉や枝を切除し処分する。 ・農薬を散布する。

出典「街路樹の倒伏対策の手引き」より作成

(2) 穿孔性害虫

害虫		主加害樹	加害形態・発生様式	主な防除法
穿孔性害虫	コスカシバ (スカシバガ科)	サクラ類、ウメ、モモ、リンゴ、スモモなど	・幹の樹皮下に穿孔し、虫糞の混じった半透明のヤニを排出する。 ・被害木は形成層を食害されるため、樹勢が低下する。 ・穿孔した部分から胴枯病や腐朽菌の侵入を受けやすくなる。 ・年に1回の発生。 ・穿孔した幼虫は樹皮下で越冬し、翌春に再び食害して、樹皮下で蛹化する。 ・成虫は5月下旬から10月下旬まで羽化するが、最盛期は9月。 ・樹皮の割れ目や傷口に産卵する。 ・孵化した幼虫は直ちに樹皮下に穿孔し褐色の木屑と虫糞を排出する。	・若枝、枝、球果を切除し処分する。 ・幹を切開して幼虫を除去する。 ・農薬を散布する。
	コウモリガ (コウモリガ科)	ヤナギ類、ポプラ類、ハンノキ、シラカンバ、コナラ、クヌギ、クリ、カシ類、スギなどの広範囲の広葉樹と針葉樹	・多犯性で幹に穿孔して加害する重要害虫である。 ・被害木は枯損や風折れを受けやすくなる。 ・2年に1回の発生。 ・卵で越冬し4～5月頃に孵化する。 ・孵化した幼虫は、地表の雑草の茎を摂食し、成長してから樹木の幹などに移動して地際の樹皮を環状に食害し、材内に穿孔する。 ・穿孔部に木くずと虫糞を糸でつづった袋状の蓋をつける。 ・穿孔孔に繭をつくって蛹化する。 ・成虫は8月下旬～10月中旬に羽化し、夕暮れ時に活発に飛翔しながら数多くの卵を産み落とす。	・初期幼虫期に農薬を散布する。
	クワカミキリ (カミキリムシ科)	クワ、ポプラ類、ヤナギ類、カシ類、ケヤキ、イチシク	・幼虫が幹、枝の材部に穿孔することで、樹勢が低下したり、場合によっては枯死に至る。 ・加害部は地上0.7～2m付近に多い。 ・成虫が枝をかじることによって枝枯れが生じる。 ・2～3年に1回の発生。 ・幼虫は穿孔内で越冬し、5～6月に蛹化する。 ・成虫は7～9月に出現して新梢の樹皮を後食する。 ・幹、枝の樹皮に馬蹄形の噛み傷をつけ、その中に産卵する。 ・孵化した幼虫は樹皮の下に潜り、小さな穴をあけ木屑を固めて排出する。	・成虫を捕殺する。 ・初期幼虫期に農薬を散布する。
	ゴマダラカミキリ (カミキリムシ科)	ブラタナス類、カエデ類、ポプラ類、ヤナギ類、カシ類、シイ類など各種の広葉樹	・成虫は各種の広葉樹の葉や小枝を食害する。 ・幼虫は、はじめ樹皮下を食害するが、成長すると木部へ穿孔して材を食害する。 ・幼虫が材部を穿孔すると直径1～2cmほどのトンネルができ、樹勢が低下するとともに幹や枝が折れやすくなる。 ・2年に1回の発生であるが、1年に1回のこともある。 ・幼虫は、穿孔内で越冬し翌春に蛹化する。 ・成虫は6～8月に出現し、葉や小枝の表皮を浅く後食する。 ・地際の樹幹の樹皮に10mm程度の噛み傷をつけて産卵する。 ・幼虫は、成長すると木部へ穿孔する。 ・被害部からは、繊維状の木屑が排出される。	・成虫を捕殺する。 ・農薬を散布する。
	マツノマダラカミキリ (カミキリムシ科)	アカマツ、クロマツなどのマツ類	・マツノザイセンチュウを媒介するカミキリであり、(媒介昆虫)、マツ枯損を引き起こす重要害虫である。 ・普通、1年に1回の発生であるが、寒冷地では2年に1回発生する個体もある。 ・成虫は5月下旬から7月にかけて、被害木に直径約5mmの円形の飛孔をあけて脱出する。脱出した成虫は、マツの当年生から3年の枝の樹皮をかじる。この成虫の摂食を後食と呼ぶ。 ・カミキリの気管内に侵入してきたマツノザイセンチュウは、後食のときに気管内から脱出し、後食痕からマツの樹体内に侵入する。マツノザイセンチュウの侵入したマツは樹脂の滲出が停止してマツ材線病にかかり、マツは枯死する。 ・幼虫は内樹皮と辺材部を浅く食害した後、材内に穿孔し、秋に蛹室を作り越冬する。翌春5月に蛹化。材内にいるマツノザイセンチュウはカミキリが羽化した直後に気門から気管何に侵入し、カミキリ成虫によって健全なマツへと運ばれる。	【幼虫の駆除】 ・被害木の伐倒焼却処理、伐倒くん蒸処理、チップ化処理。 【成虫の防除】 ・成虫の発生期にトラップで捕殺する。 ・事前に樹幹注入を実施する。 ・成虫発生期に農薬を散布する。

出典「街路樹の倒伏対策の手引き」より作成

(3) 吸汁性害虫

害虫		主加害樹	加害形態・発生様式	主な防除法
吸汁性害虫	クリオオアブラムシ (アブラムシ科)	クリ、クヌギ、カシ類など	・春から秋にかけて枝に群生して、吸汁加害する。 ・排泄物にすす病が発生すると、苗木では樹勢が低下する。 ・年間の発生回数は不明。 ・卵で越冬して翌春4月頃から孵化し、12月頃まで発生を繰り返して加害する。 ・孵化幼虫は新梢や枝から樹液を吸って発育し、無翅雌成虫となる。 ・5月頃に発生する有翅の成虫は、クリやクヌギ、カシ類に分散する。 ・10月頃、越冬卵を産む成虫が出現し、交尾して10月末～12月上旬に幹や主枝に群がって産卵する。	・冬季に越冬中の卵塊を除去する。 ・農薬を散布する。
	ルビーロウムシ (カタカイガラムシ科)	モチノキ、ウメ、ウメドモキ、ゲッケイジュ、ツバキ、モッコク、クチナシなど	・極めて雑食性で各種の広葉樹の枝、幹などに寄生して吸汁し、樹勢を低下させる。 ・すす病を併発させて美観も損ねる。 ・年に1回の発生。 ・成虫は9～10月の間に出現し、そのまま越冬し、翌年5月にかいがら下に産卵する。 ・6～7月に幼虫となる。	・少ない発生の場合には、そぎ落す。 ・初期幼虫に農薬を散布する。

出典「街路樹の倒伏対策の手引き」より作成

■クビアカツヤカミキリについて

クビアカツヤカミキリは、サクラやモモなどに産卵し、幼虫が樹木の内部を食い荒らす外来生物である。

食害が進むと、枯死、倒木等の被害が発生するおそれがある。

平成 30 年 1 月 15 日付けで特定外来生物に指定されている。

害虫		主加害樹	加害形態・発生様式	主な防除法
穿孔性害虫	クビアカツヤカミキリ (カミキリムシ科)	サクラ、ウメ、モモ、スモモ ハナモモなど主にバラ科	・幼虫は樹木内で2～3年かけて成長し、さなぎになる。 ・成虫の活動時期は5月末から8月頃で、幹や枝の樹皮の割れ目に産卵する。 ・一匹のメスが100～300個もの卵を産み、繁殖力が強い。 ・成虫の寿命は2週間以上である。 ・焼酎は生木の内部を食い荒らし、樹木を衰弱させる。被害を受けた樹木は、やがて枯死してしまう。	・成虫を捕殺する。 ・初期幼虫期に農薬を散布する。

20 材質腐朽病

腐朽菌	加害樹種	分布	特徴
カワラタケ (サルノシカケ科)	広葉樹、針葉樹	全国、温暖帯以北	- 最も普遍的にみられる木材腐朽菌である。 - 多種の広葉樹に発生するが、針葉樹にも発生する。 - 夏～冬に、広葉樹や針葉樹の枯木や枯枝に屋根瓦のように重なって多数発生する。 - 木材腐朽力は強く、オオウズラタケとともにJIS木材耐朽性試験の標準菌株に指定されている。
コフキタケ (サルノシカケ科)	広葉樹	全国	- 通年、広葉樹の枯木や生立木に発生する。 - ベッコウダケと並んで緑化樹に最も多く発生し、風倒の原因となる種である。 - 多年生で、チョコレート色の傘肉を有し、大量の胞子の飛散により傘の表面や周囲が粉を吹いたよう（コフキの由来）になる。 - フナなどに発生するツリガネダケと似ているが、ツリガネダケの傘肉の色は薄く、肌色～飴色を呈する。
ナラタケ (キシメジ科)	広葉樹、 一部の針葉樹 (ヒノキ、クロマツ)	全国、特に温帯域	- 初夏～夏、晩秋に発生する。 - ナラタケ類は種によって寄主や病原性が異なり、ナラタケは広葉樹と一部の針葉樹に発生し、オニナラタケは主に針葉樹に発生する。両者とも病原性は強い。 - 土壤中に焦茶～黒色の根状菌糸束を形成する。また、被害木の樹皮下に白色の菌糸膜を形成する。
ナラタケモドキ (キシメジ科)	広葉樹	全国、ナラタケの分布域よりやや暖かい地域	- 春～秋に広葉樹の枯木や生立木の根際に発生する。 - ナラタケに似るがツバを欠くことで区別される。 - ナラタケと同様に樹木を衰弱・枯死させるが、ナラタケと異なり土中には菌糸束を作らない。
ベッコウダケ (サルノシカケ科)	広葉樹、まれに針葉樹	全国	- 通年、広葉樹（まれに針葉樹）の枯気や生立木の地際に発生する。 - 緑化樹に発生する頻度が最も高い腐朽菌の1つであり、風倒れの原因となる。 - マメ科樹木に多く発生し、根株腐朽を起こすだけでなく、しばしば枯死させる。

出典「街路樹の倒伏対策の手引き」より作成

21 樹木の病気

※薬剤については、農薬取締法に基づき登録されたものとする。

病気	罹病樹木	主な特徴	主な防除法
うどんこ病	ハナミズキ、サルスベリ、カシ類、マサキ、カエデ類など	- 白渋病ともいい、植物の葉の表面・裏面または両面にうどん粉（小麦粉）をまいたように病原菌の菌糸で覆われる病気。菌の種類や樹種によっては、表面を覆う菌の色が褐色、紫褐色を呈するものもある。子のう菌類に属するウドンコキン類の病原菌によって発生する。 - 葉に白い粉をまいたような菌糸と分生子が覆うことで葉枯を起こし、新梢部が侵されるとその部分が縮れて成長が停止する。	- 越冬胞子が形成されている落葉などを焼却して処分することにより第一次伝染源を除去する。 - 常菌糸で越冬する常緑樹では、被害の激しい幹線部の除去、及びその時期に薬剤の散布が有効である。
永年性がんしゅ病	マユミ、ビワ、モモ、モミ、カラマツなどで被害が大きい	- 主に幹や太い枝において、樹皮が紡錘形となり暗褐色に侵され、比較的ゆっくりと、部分的に形成層が壊死し、その部分を中心に凹みができる。 - その周囲には癒合組織が形成され、これが繰り返されて永年性のがんしゅとなる。 - 根に発生するものは根頭がんしゅ病と称し区別する。	- 植栽直後の樹木は、活着と樹勢の回復を早期に図る。窒素質が過多の場合は罹病しやすいので、施肥にも注意する。 - 極端な過湿、乾燥しやすい土地は発生しやすいので、被害が出やすい場合は土壌改良を行う必要がある。 - 枯枝や損傷部は早めに切除し、傷口に薬剤を塗布する。切除した枝や幹は伝染源となるので、焼却処分する。
こぶ病	サクラ類、フジ、マツ類など	- 枝や幹が病原菌に侵され、その部分の細胞が肥大して大きく膨れ、こぶ状になる病気の総称である。代表的なものに「マツのこぶ病」がある。 - 梅雨頃から、枝や幹にこぶができはじめ、次第に大きくなってこぶし大（球形から紡錘形）になる。 - 古いこぶしは亀裂が生じ、内部が腐り空洞化し、枝枯れが生じる。	- こぶは今後の感染源になりうるので除去するが、細い枝の場合は枝ごと除去する。 - 切り口に薬剤を塗布する。
天狗巣病	サクラ類、キリ、モミ、アスナロ、ツツジなど多くの樹種に発生	- 多くの樹種に発生する病気で、罹病部から多くの細い枝をほうき上に出し、天狗の巣のような症状を呈することから「てんぐす病」といわれる。欧米では「witches' broom（魔女のほうき）」と呼ばれる。 枝、幹の一部が膨らみ、この1箇所から小枝が不規則に箱状に群生する。 - 発病当年は枝が少なく目立たないが、巢は年々大きくなり、周りの健全部にも伝染して増える。 - 樹勢の衰退とともに、木材腐朽菌などを併発することでより著しく衰える。 - 病枝は健全枝よりも早く開葉して節間がつまった小型の葉をつけるため、美観を損ねる。	- 病原菌は、病枝の中で越冬して開葉と同時に進展するため、葉が展開する前に被害部を切除し、焼却して伝染源を除去する。 - 傷口には癒合材を塗布する。
胴枯病	カエデ類、モクセイ類、サクラ類、イチチョウ、カキノキ、ヒトツバタゴ、ニオイヒバなど	- 病原菌が枝や幹に寄生し、罹病部から上部を枯らすため、胴枯病とよばれる。 - 枝や幹は、赤褐色ないしは茶褐色～黒褐色などに変色して陥没した病斑をみせる。 - 陥没した周囲には癒合組織が形成されて、膨らんでくる。 - 病斑が枝や幹を一周すると、通水の組織が破壊されるため、その上部は萎れて枯れる。 - 病斑上には表皮の隆起がみられ、中には胞子の粘塊があり、梅雨期には押し出された粘塊がみられる。	- 移植時には、施肥や灌水等により十分な養生を行い、早期活着と樹勢の向上を図る。 - 初期病斑では、罹病部を健全組織を含めて完全に切り除き、よく乾燥させた後で薬剤を塗布する。 - 切除した樹皮や枝、幹は伝染源となるので焼却処分する。 - 凍霜害や乾燥害を誘因として発生することが多いので適地・適木の樹種選定をする。
根頭がんしゅ病	サクラ類、ナシ、リンゴ、カキ、クリ、ブドウなどの果樹類や、バラ類、フジ、ボケなどの花木類	- 根や幹の地際の部分に表面がかさぶた状になった大きなこぶができる。 - 病気にかかるとこぶが大きくなるとともに樹勢が衰え、枯れることがある。	- 発病後の根絶は難しいが、被害部を健全部まで含めて完全に削りとり、病斑部を完全に除去後、焼却する。 - 切り口には薬剤を塗布する。

出典「街路樹の倒伏対策の手引き」より作成

22 主な農薬の適用病虫害と適用作物

農薬名	適用病虫害名	適用作物名
トリフミン水和剤	うどんこ病	樹木類
マネーシ乳剤		
スミチオン乳剤	アブラムシ類、グンバイムシ類、フラーバラソウムシ アメリカシロヒトリ	樹木類
ディブテレックス乳剤	アメリカシロヒトリ、モンクロシャチホコ、チャドクガ、 ウメケムシ、マイマイガ、ミノガ類、クスサン、ミノウスバ、 キオビエダシャク、コウマダラエダシャク	樹木類 (サンゴジュを除く)
カルホス乳剤	アメリカシロヒトリ	サクラ、プラタナス
	チャドクガ	ツバキ類
	ツノロウムシ	樹木類
オルトラン水和剤	アメリカシロヒトリ、モンクロシャチホコ	サクラ
	チャドクガ	ツバキ類
	ツツジグンバイ	ツツジ類
	アザミウマ類	樹木類
スブラサイド乳剤	カイガラムシ類幼虫	樹木類
ダイシストン粒剤	アブラムシ類、ハダニ類、グンバイムシ	果樹（苗木）、花木（苗木）
トップジンMペースト	切り口及び傷口の癒合促進	樹木類
マシン油乳剤	カイガラムシ	落葉性庭木、アオキ、カナ メモチ、サザンカ、サンゴ ジュ、ツツジ、ツゲ、ツバキ、 モッコク、マサキ統

出典「街路樹剪定ハンドブック」

23 ぐんまの風景を魅せるインフラ整備チェックシート抜粋

【1】道 路（市街地、歴史的・文化的な地域）

◆歩きたくなる道路を創る！ （にぎわいの創出が必要な市街地）



●来訪者が楽しめるよう「おもてなし」を表現する

まちの評価は、道60%、建物40%

→道路の整備はまちの魅力に直結する。

（人は自分の近いところを遠いところよりも過大に評価する！）

- ・人が楽しめる道路空間を創出する。
- ・周辺の風景を壊さない。
- ・照明をうまく使う。
- ・休憩スペース（ベンチ等）をつくる。

項目	整備指針・配慮事項		
(4) 道路緑化／植栽・街路樹	整備指針	道路緑化にあたっては、将来の維持管理・見え方をイメージ検討するとともに、沿道空間との関係や、緑化の必要性を十分考慮し、周辺景観との調和、統一感、めりはり感等の表現に配慮する。まちなかでは、必要に応じて植栽による憩いの空間創出に配慮する。 樹種の選定にあたっては、道路の幅員構成、性格や地域特性にふさわしい道路景観を形成するよう、樹木の姿（樹形、樹高等）、季節変化（新緑、紅葉、落葉、開花等）、その他の特性（葉形の大きさ、樹皮等）に配慮する。	
	配慮事項	道路における植物の育成環境と生育可能性との関係について、計画の段階で十分検討します。 将来の維持管理・見え方をイメージしながら、植栽間隔等を検討します。 維持管理段階における樹木等の剪定は、美しい樹形をイメージしながら実施することが重要です。	check
		・ 将来の樹高や樹形を想定し、植栽空間に合うかどうか検討する。	はい いいえ
		・ 枝の伸び方、根の張り方についても考慮する。	
		・ 10年、20年、その先の維持管理・見え方をイメージしながら植栽間隔等を検討する。	
		 良くない事例 植栽スペースが狭く、削り取られた樹木。  根上りをした街路樹。  街路樹自体が見たいものとなった良い事例。	
	配慮内容	【予備・概略設計】	
		【詳細設計】	
		【施工】	

項目		整備指針・配慮事項	
	配慮事項	広い幅員の歩道と広い植樹帯が確保できる主要幹線道路は、ボリュームのある並木を枝葉の張り出しや根の成長を想定した上で形成し、街路樹自体が見所となるように都市骨格としての景観軸を明確に表現します。	check
		はい	いいえ
		・ まちなみや地域の風景にあった道路空間になるよう、樹種や配置を検討する。	
		・ 沿道空間との関係を考慮し、まちなみが見えやすくなるよう配慮する。	
	配慮内容	 ケヤキ並木によるうおいある空間の創出（緑陰の形成）。 （定禅寺通り／仙台市）	
		【予備・概略設計】	
		【詳細設計】	
		【施工】	
	配慮事項	道路を緑化する場合は、既存樹林・樹木等の保全や樹木等の移植活用、表土の活用について検討します。	check
		はい	いいえ
		・ 既存樹林や樹木等を現況のまま保全できるか検討する。	
		・ 樹木の移植活用や表土の活用について検討する。	
	配慮内容	【予備・概略設計】	
		【詳細設計】	
		【施工】	

23 ぐんまの風景を魅せるインフラ整備チェックシート抜粋

【2】道 路（郊 外 部）

◆道路から周囲の風景（きれいな山並み、田園風景、市街地）を魅せる（見せる）！



●車を運転または同乗していて、 風景が見えにくくなるものを取り除く

- ・電柱を立てない。電線を横断させない。
- ・植樹（中木、高木）をしない。
- ・透過性の高い防護柵（ガードパイプなど）を使う。
- ・防護柵や標識柱等の色を目立たせない。
- ・屋外広告物の規制誘導を検討する。

項目	整備指針・配慮事項		
(5) 道路緑化／植栽・街路樹	整備指針	道路緑化にあたっては、沿道空間との関係や、緑化の必要性を十分考慮し、周辺景観との調和、統一感、めりもり感等の表現に配慮する。	
		樹種の選定にあたっては、道路の幅員構成、性格や地域特性にふさわしい道路景観を形成するよう、樹木の姿（樹形、樹高等）、季節変化（新緑、紅葉、落葉、開花等）、その他の特性（葉形の大きさ、樹皮等）に配慮する。	
	配慮事項	◆田園部等の道路 周囲の風景を見せるため、あえて植栽しないことで開放的な景観形成を演出するよう配慮します。	check はい いいえ
		・眺望景観の阻害とならないよう、低木のみ植樹するか、あるいは植樹をしないことも検討する。	
		・植栽する場合は、地域にふさわしい樹種とする。	
			
		田園景観を阻害しない 開放的な走行景観。	
	配慮内容	【予備・概略設計】	
		【詳細設計】	
		【施工】	
	配慮事項	道路を緑化する場合は、既存樹林・樹木等の保全や樹木等の移植活用、表土の活用について検討します。	check はい いいえ
		・既存樹林や樹木等を現況のまま保全できるか検討する。	
		・樹木の移植活用や表土の活用について検討する。	
	配慮内容	【予備・概略設計】	
		【詳細設計】	
		【施工】	

【3】道路（山間部）

◆道路から周囲の風景（山々、市街地等）を魅せる（見せる）！



- 車を運転または同乗していて、風景が見えにくくなるものを取り除く
 - ・電柱を立てない。電線を横断させない。
 - ・植樹（中木、高木）をしない。
 - ・透過性の高い防護柵（ガードパイプなど）を使う。
 - ・防護柵や標識柱等の色を目立たせない。
 - ・法面はできるだけつくらない。法面の表情をやわらげる。
 - ・ビューポイント（眺望点）をつくる。
 - ・屋外広告物の規制誘導を検討する。

項目	整備指針・配慮事項		
(6) 道路緑化／植栽・街路樹	整備指針	道路緑化にあたっては、沿道空間との関係や、緑化の必要性を十分考慮し、周辺景観との調和、統一感、めりはり感等に配慮する。	
		樹種の選定にあたっては、道路の幅員構成、性格や地域特性にふさわしい道路景観を形成するよう、樹木の姿（樹形、樹高等）、季節変化（新緑、紅葉、落葉、開花等）、その他の特性（葉形の大きさ、樹皮等）に配慮する。	
	配慮事項	周辺景観を阻害しないようにするため、あえて植栽しないことで周囲の景色を見せる演出をするよう配慮します。	check
		・ 周辺の風景を見せるため、低木のみの植樹するか、あるいは植樹をしないことを検討する。	はい いいえ
		・ 植栽する場合は、地域にふさわしい樹種とする。	
		 田園景観を阻害しない開放的な走行景観。	
	配慮内容	【予備・概略設計】	
		【詳細設計】	
		【施工】	
	配慮事項	道路を緑化する場合は、既存樹林・樹木等の保全や樹木等の移植活用、表土の活用について検討します。	check
		・ 既存樹林や樹木等を現況のまま保全できるか検討する。	はい いいえ
		・ 樹木の移植活用や表土の活用について検討する。	
	配慮内容	【予備・概略設計】	
		【詳細設計】	
		【施工】	

24 地域ニーズを反映した公共事業ガイドライン【概要】

1. 地域ニーズを反映した公共事業の目的

P.2

「地域ニーズを反映した公共事業ガイドライン」は、公共事業を進めるに当たり、「事前にアンケート方式などにより住民の意見を聴いた上で計画を策定する手法」の考え方や具体的な進め方をとりまとめたものです。

なお、今後、県土整備部における公共事業の実施に当たっては、本ガイドラインに示すとおり、事前に住民の意見を聴いた上で計画を策定する方法への転換を図っていきます。

2. 地域ニーズを反映した公共事業の特徴

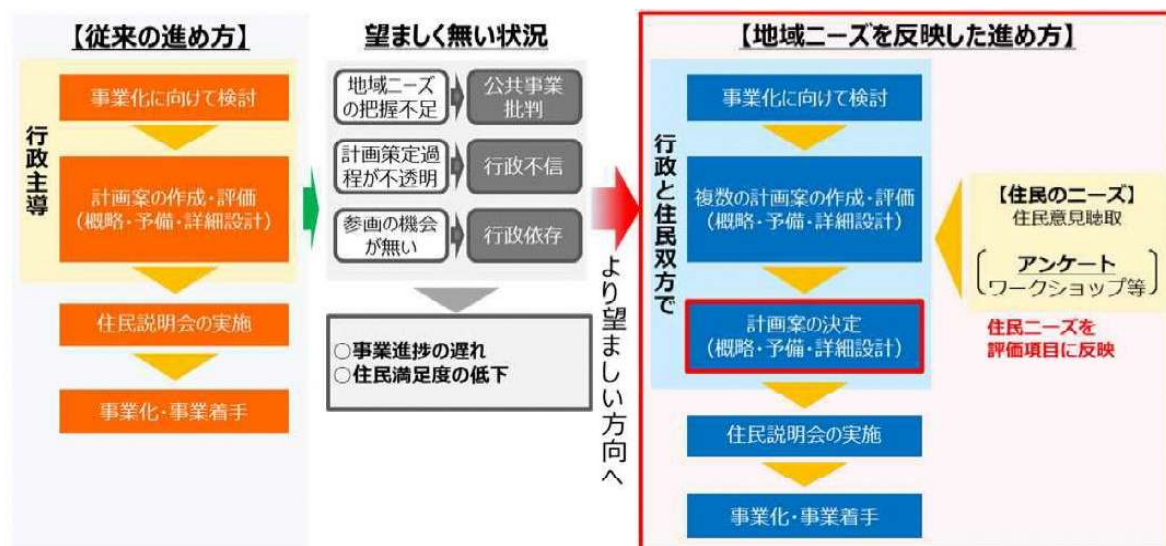
P.2

- ①計画案の決定前に住民の意見を聴く。
- ②住民の真のニーズを把握する。
- ③地域ニーズを評価項目とし、複数の比較案の作成と評価を行う。

3. これまでの公共事業との進め方との違い

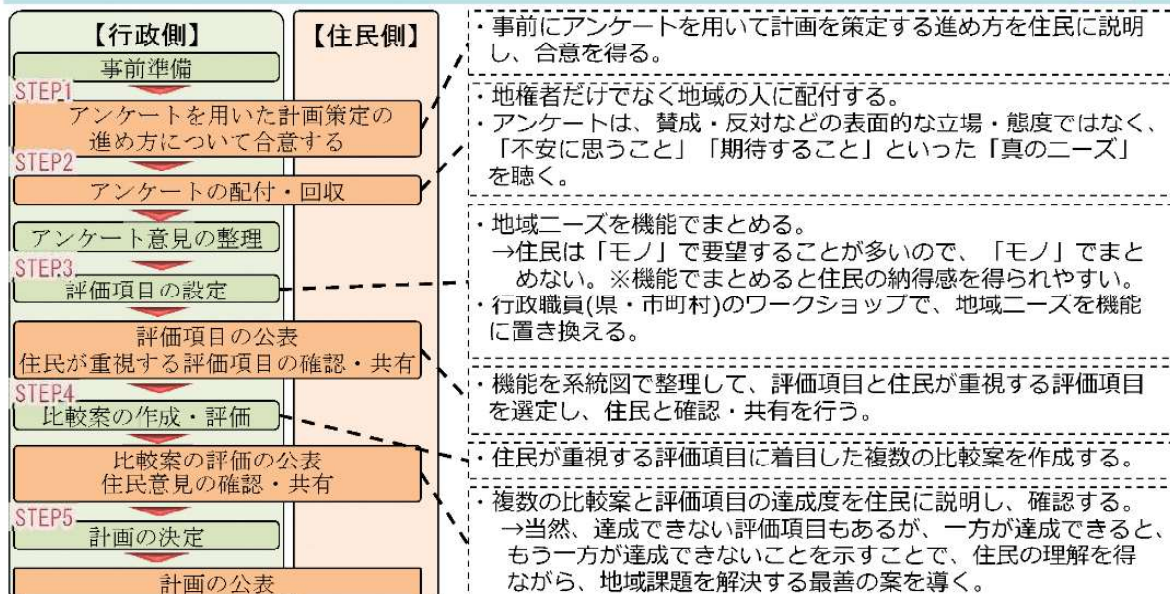
P.5

- ①県が決めてから県民に計画を示し、理解・協力を求めるのではなく、事前に住民の意見を聴いてから計画を策定します。
- ②対象は地権者だけではなく、周辺の住民や施設利用者など関係する方々の声を広く聴きます。
(地権者以外の人にも公共事業の必要性をPRして、広く理解いただく姿勢が重要です。)



4. 地域ニーズを反映した公共事業の具体的な進め方

P.5



5. 地域ニーズを反映した公共事業の効果

P.6

【地域ニーズを反映した公共事業の進め方】

- ・地域ニーズを計画に反映
- ・住民との計画策定の進め方の合意
- ・検討ステップ毎の住民との合意形成
- ・事業目的の明確化
- ・関係住民に公平に意見聴取

【地域ニーズを反映した公共事業の効果】

- ①計画の質の向上
- ②計画策定過程の透明性向上
- ③住民の関心・理解の向上
- ④事業目的の再認識と共有
- ⑤潜在的な紛争の可能性を事前に把握し対応
- ⑥完成までのトータルの事業期間の短縮



こんな効果があります！

地域ニーズを反映した公共事業の実施により、結果的に用地買収や事業実施などが円滑に進み、事業の早期完成を図ることが可能となり、**完成までのトータルの事業期間の短縮が期待できます。**

《主な事例》

①事例1（A道路）

4車線のバイパス整備事業（延長約4 km）の用地買収が概ね2年で完了。

②事例2（B道路）

JR高崎駅東口駅前の市街地における道路事業の用地買収が概ね2年で完了。

6. 地域ニーズの把握方法

P.11

以下の2点についてアンケートにより確認します。

- ①住民が事業に対して「期待することや不安に思うこと」
- ②「その考えに至った理由や背景」



ポイント

事業への「賛成」「反対」や、モノに関する要望といった表面的な態度ではなく、その背景にある考え方や理由を聴くことで住民の「真のニーズ」を把握し、それを柔軟に計画に反映させます。

→住民は自分の意見が計画に取り入れられていることが分かるため、納得感や合意が得られやすくなります。

《標準アンケート用紙》 住民の真のニーズを把握するために事業の種別にかかわらず、この様式とします。

「●●●●」事業に関するアンケート		■差し支えなければ、ご住所、お名前、電話番号のご記入をお願いいたします。	
		ご住所	●●市
		お名前	電話番号
Q1	〇〇〇〇の〇〇事業について、期待すること、気になること、不安に思うことはどんなことですか？	Q1のご意見について、「なぜそう思うのか」具体的な理由や背景にある考え方もあわせて教えてください。	
Q2	〇〇〇〇の〇〇事業全般について、期待すること、気になること、不安に思うことについて具体的な場所があれば、ご記入をお願いします。 また、その場所の番号を裏面の地図に記入してください。	Q2のご意見について、「なぜそう思うのか」具体的な理由や背景にある考え方もあわせて教えてください。	
場所①			
場所②			
場所③			
その他	その他、何でも結構です。思うことや考えることがありましたら、自由にお書きください。		



Q. アンケートは選択形式にはできないのですか？

A. 選択形式の場合、行政側で選択肢を設定しなければならず、恣意的になる恐れがあります。また、**行政側が設定した選択項目以外の住民の意見が出づらくなる**とともに、**意見の背景にある住民の「真のニーズ」の把握が困難になるため、選択形式では実施していません。**

24 地域ニーズを反映した公共事業ガイドライン【概要】

7. 各検討ステップの目的と決定する事項

事前準備

準備1 アンケートを用いた計画策定に当たっての基本事項の確認 P.18

地域ニーズを反映した公共事業に取り組むことについて、計画策定時における議論の混乱や手戻りによるスケジュールの遅れ等を防ぎ、円滑な計画策定を行うため、事業の目的とその背景や過去の経緯、計画策定上の制約条件などの基本事項、意見を聴く対象者やスケジュール、検討ステップ毎の決定事項など、アンケートを用いた計画策定の進め方（プロセス）を明確にし、県や市町村の担当者など関係者間で確認・共有します。

準備2 アンケート用紙の作成 P.30

住民から地域ニーズ（事業に対して期待すること、不安に思うことなど）を聴くためのアンケート用紙を作成します。

STEP 1 住民との進め方の合意

1-1 アンケートを用いた計画策定の進め方について合意する P.38

説明会1

経過策定プロセスの透明性の確保、計画策定時における議論の混乱や手戻りの防止のため、はじめに、住民にアンケートを用いて地域ニーズを把握しながら計画策定を進める旨を説明した上で、進め方やスケジュール等について、住民との合意形成を図ります。

【決定する事項】アンケートを用いて地域ニーズを把握する計画策定の進め方、検討スケジュール

STEP 2 地域ニーズの把握

2-1 アンケートの配布・回収 P.41

計画策定に向け、地域ニーズを把握するため、対象者あてにアンケート用紙を配布し、意見を記入していただいた上で、回収を行います。

【決定する事項】地域ニーズ

2-2 アンケート一覧の作成（ナンバリング） P.42

アンケート意見数を正確に把握し、アンケート意見のもれやダブリを防ぐため、アンケート意見を一覧表に整理し、ナンバリングします。

【決定する事項】アンケート一覧表

2-3 意見要旨の作成 P.43

アンケートの意見について、その理由や背景に着目し、意見要旨を作成します。

【決定する事項】アンケート意見の要旨

2-4 意見要旨のまとめの作成 P.44

「機能の定義」を的確かつ効率的に行うため、同様な意見の要旨を集約し、「意見要旨のまとめ」を作成します。

【決定する事項】意見要旨のまとめ

STEP 3 地域ニーズを反映した評価項目の設定

3-1 機能の定義 P.46

行政関係者
ワークショップ

事業の「目的」や、地域の課題解決に向けた社会資本の「働き」、また、住民が求める「地域ニーズ」を「賛成」「反対」といった表面的な立場や態度、個別具体的なモノや手段ではなく、「真のニーズ」で捉えるため、住民の意見を「機能」に置き換えます。

【決定する事項】事業そのものの「機能」と住民が求める「機能」

機能の定義 → 「社会資本の基本機能」や「住民の真のニーズ」を「〇〇を〇〇する」で簡潔に表現

3-2 機能の整理（機能系統図の作成）

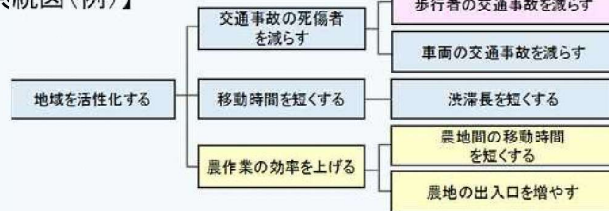
P.51

行政関係者
ワークショップ

定義した機能を目的と手段の関係で体系づけ並び替えることで、「機能系統図」を作成します。

【決定する事項】
機能系統図

【機能系統図（例）】



3-3 評価項目の設定

P.56

行政関係者
ワークショップ

最終的に決定する計画の妥当性や優位性を確認するため、次のステップで複数の比較案を作成しますが、それらの比較案を比較・評価するための「評価項目」を、機能系統図から作成します。

【決定する事項】評価項目

【評価項目（例）】

① 歩行者の交通事故を減らす	
② 車両の交通事故を減らす	
③ 移動時間を短くする	
④ 農作業の効率を上げる	
⑤ 災害時の被害を減らす	
⑥ 工事による生活への影響を抑える	⑥-1 工事による迂回時間を短くする
	⑥-2 工事中の交通事故を減らす
	⑥-3 公害をなくす

3-4 評価項目の公表、住民が重視する評価項目の確認・共有

P.58

説明会2

行政側で設定した評価項目について過不足がないか、比較案を作成・公表する前に、説明会などで住民と確認・共有を行います。あわせて住民が重視する評価項目の確認も行います。

【決定する事項】評価項目、住民が重視する評価項目



Q. アンケート結果は、意見ごとにその数を示す必要はありますか？

A. 評価項目の設定や評価に当たっては、住民意見の多い、少ないでは判断せず、事業に必要な機能かどうかで判断します。よって、住民が戸惑わないよう、アンケートで出された意見の数や割合は住民には示さないこととしています。ただし、「真のニーズ」の数が多い評価項目は、住民の利害・関心が高い事項であるため、住民が重視する評価項目を確認する際は、真のニーズから集計した住民意見の数も1つの判断材料として、考慮することも可能です。

STEP 4 比較案の作成・評価

4-1 比較案の作成

P.63

最終的な計画の決定に向け、複数の比較案を作成します。

【決定する事項】複数の比較案

4-2 比較案の評価

P.66

作成した複数の比較案について、住民との合意形成を得た評価項目ごとに、その達成度の確認・共有をしながら、評価を行います。

【決定する事項】比較案の評価

4-3 比較案の評価の公表、住民意見の確認・共有

P.73

説明会3

行政側で作成した複数の比較案及びその評価について、住民側から見た妥当性を確認するため、説明会等で考え方を説明し、住民と行政関係者間で共有します。この段階では、個々の評価項目の達成度は評価しますが、どの案が総合的に良いかの評価はしません。

【決定する事項】比較案と評価

STEP 5 計画の決定と公表

5-1 計画の決定

P.74

これまでのステップの成果をもとに、地域ニーズを踏まえつつ、政策的な整合性や、技術的な合理性も含め総合的に勘案した上で、公益性・公共性の観点から判断し、最終的に県が計画を決定します。

【決定する事項】最終の計画

5-2 計画の公表

P.76

説明会4

最終的な計画に関する住民の合意を得るため、最終の計画及びその決定に至った考え方や経緯について、説明会等で住民に説明します。